

平成 20 年 度

都市・地域整備局関係予算概要

平成 20 年 1 月

国土交通省都市・地域整備局

目 次

I. 平成20年度予算の骨子

1. 予算のポイント	1
2. 平成20年度都市・地域整備局関係予算事業費・国費総括表	3
3. 平成20年度都市・地域整備局関係財政投融资計画等総括表	5
4. 重点事項	7
5. 重点施策推進要望に係る施策	29
6. 事業の重点化・効率化	31
7. 平成20年度都市・地域整備局関係予算政策目標別総括表	36

II. 事業別予算概要

1. 下水道事業の推進	37
2. 都市公園等事業の推進	40
3. 街路事業の推進	43
4. 土地区画整理事業の推進	46
5. 市街地再開発事業等の推進	49
6. 都市再生推進事業等の推進	52
7. 民間都市開発推進機構	54
8. 独立行政法人都市再生機構	55
9. 独立行政法人奄美群島振興開発基金	56
10. 都市整備に係る融資（都市開発資金貸付制度）	57

III. 事業別予算額

1. 平成20年度市街地整備事業費予算額	58
2. 平成20年度下水道事業費予算額	59
3. 平成20年度都市公園等事業費予算額	60
4. 平成20年度街路事業費予算額	61
5. 平成20年度特定地域振興対策関係予算額	62
6. 平成20年度都市開発資金予算額	63
7. 平成20年度行政経費予算額	64

Ⅰ. 平成20年度予算の骨子

1. 予算のポイント

(1) 重点事項（重点課題への対応）

1) 地域の活性化に向けた取組の推進（p. 7～p. 17参照）

- ① 歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりの推進
- ② 国営飛鳥・平城宮跡歴史公園（仮称）の整備着手
- ③ まち再生出資業務の拡充
- ④ 中心市街地の活性化
- ⑤ まちづくり交付金による協働・連携事業への支援の強化
- ⑥ 集約型都市構造への転換・既成市街地の再整備の推進
- ⑦ 総合的な都市交通の戦略に基づく施策の推進
- ⑧ 踏切対策のスピードアップ
- ⑨ 下水道事業における市町村合併支援措置の延伸等

2) 安全で安心なまちづくりの推進（p. 18～p. 20参照）

- ① 被災したまちの早期復興等
- ② 雨に強い都市づくり支援事業の創設

3) 地球環境問題に対する取組の推進（p. 21～p. 23参照）

- ① 先導的都市環境形成総合支援事業の創設
- ② 民間活用型地球温暖化対策下水道事業制度の創設

4) 活力ある地域の実現（p. 24～p. 28参照）

- ① 地域の資源や創意工夫を活かした自立的発展の促進
 - ・ 離島地域の振興
 - ・ 奄美群島の振興
 - ・ 小笠原諸島の振興
 - ・ 半島地域の振興
 - ・ 豪雪地帯対策の推進
 - ・ 集落活性化推進事業の創設 等
- ② 大都市圏の整備の推進

(2) 重点施策推進要望に係る施策 (p. 29参照)

- ・歴史・文化を活かしたまちづくり支援
- ・歴史的資産を核とした魅力あるまちづくりの推進 (行政経費)
- ・中心市街地の活性化
- ・テレワーク推進モデル事業 (行政経費)
- ・下水汚泥の資源・エネルギー循環の推進等
- ・CO₂吸収源対策に資する都市緑化の推進
- ・既成市街地における都市環境形成促進経費 (行政経費)
- ・密集市街地の緊急整備
- ・防災公園の緊急整備
- ・緊急浸水対策

(3) 配分額の重点化 (p. 32参照)

- ・まちづくり交付金の拡充 (H20:2,510億円、1.03倍)
- ・都市防災総合推進事業の拡充 (H20:25億円、1.36倍)
- ・エコまちネットワーク整備事業の拡充 (H20:3億円、1.76倍)
- ・下水道による都市浸水対策の推進 (H20:1,137億円、1.01倍)
- ・地震災害時の避難地、防災拠点等となる防災公園の整備
(H20:273億円、1.01倍) 等

(4) 成果を重視した施策の推進

【一般公共事業費】

(単位：億円 (国費))

区 分	平成20年度	前 年 度	倍率
暮らし・環境	5,586	5,968	0.94
○良好で緑豊かな都市空間の形成、歴史的風土の再生等を推進する	622	674	0.92
○良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワーク形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を推進する	4,964	5,294	0.94
安 全	1,633	1,692	0.97
○住宅・市街地の防災性を向上する	1,633	1,692	0.97
活 力	2,920	2,854	1.02
○都市再生・地域再生を推進する	2,897	2,830	1.02
○都市・地域における総合交通戦略を推進する	24	24	0.98
横断的な政策課題等	530	552	0.96
合 計	10,670	11,066	0.96

- (注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、515億円を含む。
 2. ○印は主な施策目標であり、詳細はp. 36に掲載している。
 3. 億円未満は四捨五入しているため、合計した額が一致しない場合がある。

2. 平成20年度都市・地域整備局関係予算事業費・国費総括表

区 分	平成20年度 (A)		前年度 (B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費
下水道事業	1,202,642	617,869	1,245,801	651,662
都市公園事業	204,205	104,790	215,631	110,349
都市環境整備事業	1,037,351	344,294	1,035,392	344,553
市街地整備	931,820	292,707	929,478	292,358
市街地再開発事業等	103,918	19,767	109,661	20,781
都市再生推進事業等	33,956	18,144	32,776	17,757
まちづくり交付金	640,000	251,000	612,000	243,000
	(241)		(225)	
都市開発資金	14,826	0	14,061	0
独立行政法人都市再生機構	118,201	3,600	139,961	10,600
民間都市開発推進機構	21,160	196	21,244	220
道路環境整備(都市再生)	4,200	2,100	4,400	2,200
都市水環境整備	101,331	49,487	101,514	49,995
都市水環境整備事業	88,203	43,568	88,251	43,776
緑地環境整備総合支援事業	13,128	5,314	13,263	5,369
補助率差額	-	605	-	850
土地区画整理事業資金融資(住宅対策)	9,566	0	10,682	0
小 計	2,453,764	1,066,953	2,507,506	1,106,564
街 路 事 業	765,728	420,648	829,780	457,348
街 路 事 業	567,857	310,605	612,158	336,839
土地区画整理事業	163,123	90,969	180,244	100,320
市街地再開発事業等	32,250	17,938	34,832	19,049
街路交通調査	2,498	1,136	2,546	1,140
都市再生事業資金貸付金等	400	200	820	410
小 計	766,128	420,848	830,600	457,758
災 害 関 係	868	538	868	538
都市災害復旧事業	368	288	368	288
特殊地下壕対策事業	500	250	500	250
行 政 経 費	10,948	6,627	8,391	5,454
合 計	3,231,708	1,494,966	3,347,365	1,570,314
<特定地域振興対策関係>				
離 島 振 興	124,867	78,175	139,858	87,808
奄 美 振 興	41,478	30,109	43,608	31,427
小 笠 原 振 興	2,692	1,512	2,602	1,567
豪 雪 対 策	295	171	300	176
半 島 振 興	64	64	66	66

(単位：百万円)

倍 率 (A/B)		備 考																																																																						
事業費	国 費																																																																							
0.97	0.95	1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、以下の経費を含む。 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>事業費</th> <th>国 費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 下 水 道 事 業</td> <td>53,440 百万円</td> <td>27,981 百万円</td> </tr> <tr> <td>・ 都 市 公 園 事 業</td> <td>11,894 百万円</td> <td>5,178 百万円</td> </tr> <tr> <td>・ 都 市 環 境 整 備 事 業</td> <td>46,497 百万円</td> <td>18,300 百万円</td> </tr> <tr> <td>・ 街 路 事 業</td> <td>876 百万円</td> <td>453 百万円</td> </tr> <tr> <td>・ 行 政 経 費</td> <td>2,290 百万円</td> <td>1,100 百万円</td> </tr> <tr> <td>・ 特定地域振興対策関係</td> <td>6,488 百万円</td> <td>4,013 百万円</td> </tr> </tbody> </table> 2. 都市公園事業の事業費には、防災緑地緊急整備事業に係る都市開発資金による用地先行取得費 241百万円（前年度 225百万円）を含む。 3. 市街地再開発事業等（都市環境整備）には、先導型再開発緊急促進事業及び暮らしにぎわい再生事業を含む。 4. 都市再生推進事業等には、都市防災推進事業、都市・地域交通戦略推進事業及び都市開発事業調査を含む。 5. 都市開発資金の上段〈 〉内書きは、都市公園事業の再計上のため、集計は差し引いて計上している。 6. 独立行政法人都市再生機構には、住宅局との共管分を含む。 7. 都市水環境整備事業には、下水道関連公共施設整備促進事業（下水道関連特定治水施設整備事業）を含む。 8. 都市水環境整備の補助率差額は、下水道関連公共施設整備促進事業分である。 9. 都市再生事業資金貸付金等には、連続立体交差事業資金貸付金を含む。 10. 行政経費の前年度の計数は、組み替え後の計数である。 11. 離島振興及び奄美振興には、一般公共事業の国土交通省一括計上分及び行政経費を計上しており、都市・地域整備局所管の事業として以下の経費を含む。 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="2">平成20年度</th> <th colspan="2">前年度</th> </tr> <tr> <th>事業費</th> <th>国 費</th> <th>事業費</th> <th>国 費</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【離島振興】</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下 水 道 事 業</td> <td>4,682</td> <td>2,368</td> <td>6,359</td> <td>3,280</td> </tr> <tr> <td>都 市 公 園 事 業</td> <td>50</td> <td>25</td> <td>70</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>街 路 事 業</td> <td>1,180</td> <td>649</td> <td>900</td> <td>495</td> </tr> <tr> <td>【奄美振興】</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>下 水 道 事 業</td> <td>1,494</td> <td>780</td> <td>1,284</td> <td>670</td> </tr> <tr> <td>街 路 事 業</td> <td>390</td> <td>248</td> <td>330</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>土地区画整理事業</td> <td>32</td> <td>16</td> <td>1,004</td> <td>502</td> </tr> </tbody> </table> 12. 離島振興及び奄美振興の事業費の財源には、社会資本整備事業特別会計空港整備勘定の空港使用料を含む。 13. 本表における計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計した額と一致しない場合がある。	区 分	事業費	国 費	・ 下 水 道 事 業	53,440 百万円	27,981 百万円	・ 都 市 公 園 事 業	11,894 百万円	5,178 百万円	・ 都 市 環 境 整 備 事 業	46,497 百万円	18,300 百万円	・ 街 路 事 業	876 百万円	453 百万円	・ 行 政 経 費	2,290 百万円	1,100 百万円	・ 特定地域振興対策関係	6,488 百万円	4,013 百万円	区 分	平成20年度		前年度		事業費	国 費	事業費	国 費	【離島振興】					下 水 道 事 業	4,682	2,368	6,359	3,280	都 市 公 園 事 業	50	25	70	35	街 路 事 業	1,180	649	900	495	【奄美振興】					下 水 道 事 業	1,494	780	1,284	670	街 路 事 業	390	248	330	220	土地区画整理事業	32	16	1,004	502
区 分	事業費		国 費																																																																					
・ 下 水 道 事 業	53,440 百万円		27,981 百万円																																																																					
・ 都 市 公 園 事 業	11,894 百万円		5,178 百万円																																																																					
・ 都 市 環 境 整 備 事 業	46,497 百万円		18,300 百万円																																																																					
・ 街 路 事 業	876 百万円		453 百万円																																																																					
・ 行 政 経 費	2,290 百万円		1,100 百万円																																																																					
・ 特定地域振興対策関係	6,488 百万円		4,013 百万円																																																																					
区 分	平成20年度		前年度																																																																					
	事業費		国 費	事業費	国 費																																																																			
【離島振興】																																																																								
下 水 道 事 業	4,682	2,368	6,359	3,280																																																																				
都 市 公 園 事 業	50	25	70	35																																																																				
街 路 事 業	1,180	649	900	495																																																																				
【奄美振興】																																																																								
下 水 道 事 業	1,494	780	1,284	670																																																																				
街 路 事 業	390	248	330	220																																																																				
土地区画整理事業	32	16	1,004	502																																																																				
0.95	0.95																																																																							
1.00	1.00																																																																							
1.00	1.00																																																																							
0.95	0.95																																																																							
1.04	1.02																																																																							
1.05	1.03																																																																							
1.07	—																																																																							
1.05	—																																																																							
0.84	0.34																																																																							
1.00	0.89																																																																							
0.95	0.95																																																																							
1.00	0.99																																																																							
1.00	1.00																																																																							
0.99	0.99																																																																							
—	0.71																																																																							
0.90	—																																																																							
0.98	0.96																																																																							
0.92	0.92																																																																							
0.93	0.92																																																																							
0.91	0.91																																																																							
0.93	0.94																																																																							
0.98	1.00																																																																							
0.49	0.49																																																																							
0.92	0.92																																																																							
1.00	1.00																																																																							
1.00	1.00																																																																							
1.00	1.00																																																																							
1.30	1.22																																																																							
0.97	0.95																																																																							
0.89	0.89																																																																							
0.95	0.96																																																																							
1.03	0.97																																																																							
0.98	0.97																																																																							
0.97	0.97																																																																							

3. 平成20年度都市・地域整備局関係財政投融资計画等総括表

資金内訳 区 分		財 政 投 融 資		
		財政融資資金	産 業 投 資	小 計 (C)
社 会 資 本 整 備 事 業 特 別 勘 定 会 計 (業 務 勘 定)	平成20年度(A)	0	0	0
	前 年 度(B)	1,000	0	1,000
	倍 率(A/B)			—
独立行政法人都市再生機構 (都 市 機 能 更 新 防 災 環 境 軸 整 備 土 地 有 効 利 用 防 災 公 園 街 区 整 備 宅 地 供 給 推 進 特 定 公 園 施 設 整 備 ま ち な か 再 生 ・ ま ち な か 居 住 推 進)	平成20年度(A)	23,800	0	23,800
	前 年 度(B)	2,400	0	2,400
	倍 率(A/B)			9.92
独立行政法人奄美群島 振 興 開 発 基 金	平成20年度(A)	0	300	300
	前 年 度(B)	0	300	300
	倍 率(A/B)			1.00
合 計	平成20年度(A)	23,800	300	24,100
	前 年 度(B)	3,400	300	3,700
	倍 率(A/B)			6.51

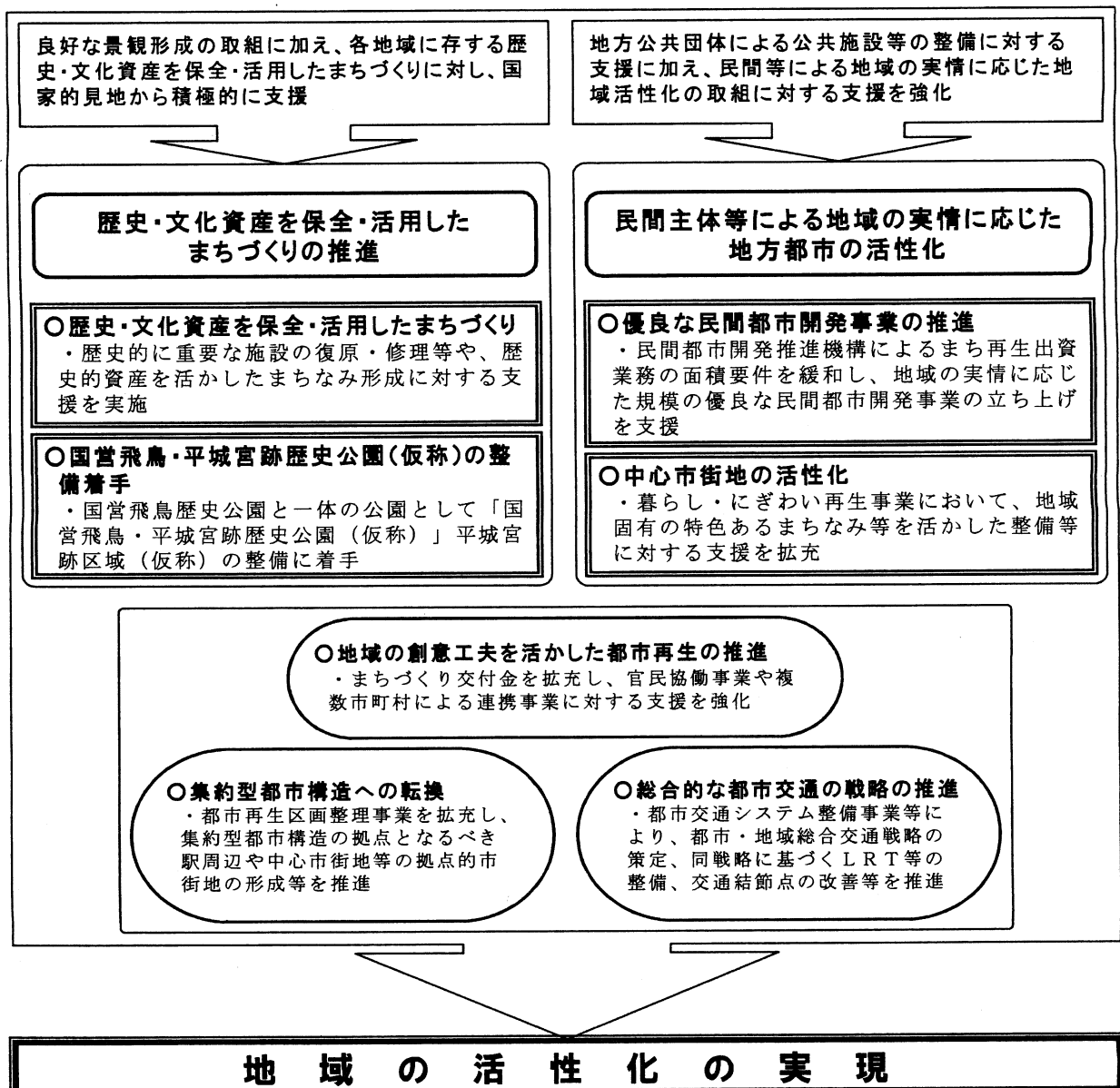
(単位：百万円)

自己資金等			合 計 (C+D)	備 考
政府出資等	そ の 他 の 自 己 資 金 等	小 計 (D)		
0	18,713	18,713	18,713	1. 社会資本整備事業特別会計（業務勘定）には、旧都市開発資金融通特別会計に係るものを計上している。 2. 独立行政法人都市再生機構の都市機能更新には、住宅局所管分を含む。また、防災環境軸整備、土地有効利用、防災公園街区整備及びまちなか再生・まちなか居住推進は、住宅局との共管である。
0	18,741	18,741	19,741	
		1.00	0.95	
3,800	137,944	141,744	165,544	
10,800	169,442	180,242	182,642	
		0.79	0.91	
0	2,400	2,400	2,700	
0	2,400	2,400	2,700	
		1.00	1.00	
3,800	159,057	162,857	186,957	
10,800	190,583	201,383	205,083	
		0.81	0.91	

4. 重点事項

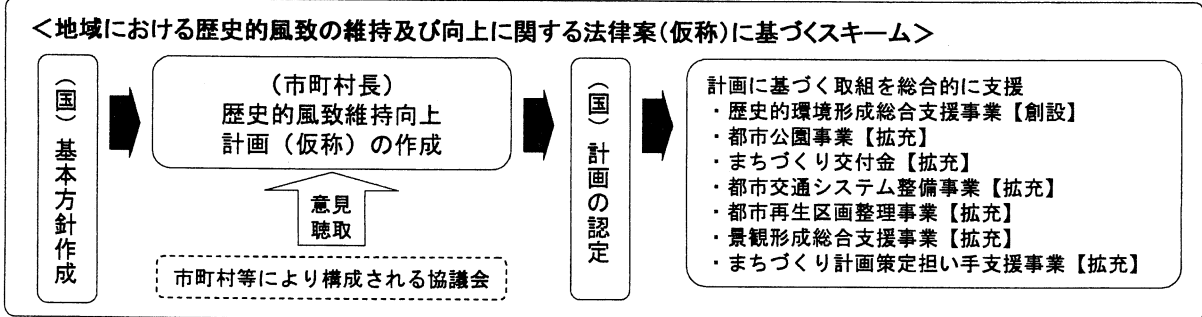
(1) 地域の活性化に向けた取組の推進

地域の活力なくして国の活力はなく、地域の活性化が喫緊の課題となっている。これまで、まちづくり交付金の創設・拡充、総合的な都市交通の戦略の推進、中心市街地の活性化への支援等を通じて、地域の創意工夫を活かしたまちづくりを支援してきたところであるが、未だ多くの地域は中心市街地の空洞化が進む等疲弊している。このため、これらの施策を拡充・強化するとともに、地域固有の歴史・文化資産を保全・活用したまちづくり、民間等による地域の実情に応じた地域活性化の取組の推進等について、必要な支援措置を講じることにより、地域の活性化を推進する。



① 歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりの推進

失われつつある歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりを推進するため、「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律案（仮称）」に基づき、市町村が作成し、国の認定を受けた「歴史的風致維持向上計画（仮称）」に即して行われる、城跡・古墳・歴史的建造物等の歴史的に重要な施設の復原・修理等や歴史的資産を活かしたまちなみ形成を支援する。

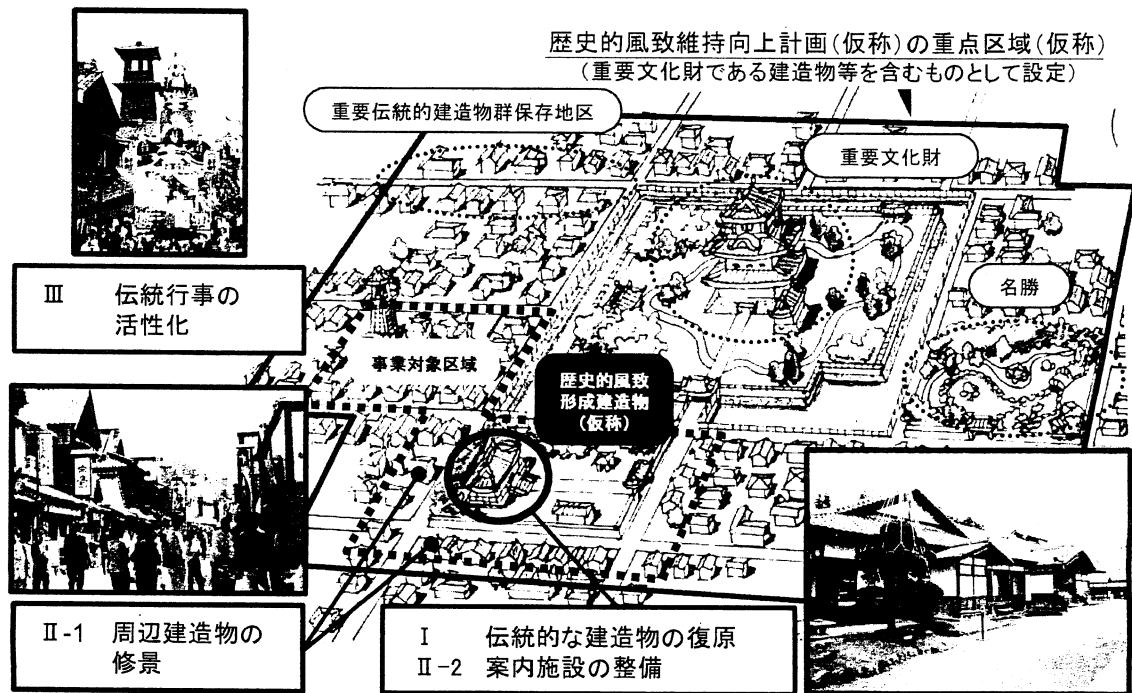


○ 歴史的環境形成総合支援事業の創設（行政経費）

魅力的な歴史的風致をもつまちづくりを推進することにより、地域の誇りを育み、地域の活性化を図るため、景観形成総合支援事業を景観・歴史的環境形成総合支援事業に再編し、歴史的風致形成建造物（仮称）の復原・修理等を中心としたハード・ソフト両面にわたる取組を総合的に支援する。

事業費 15.8億円（皆増）、国費 7.3億円（皆増）

《 歴史的環境形成総合支援事業のイメージ 》



- | | |
|------|---|
| コア事業 | I 歴史的風致形成建造物(仮称)の復原、修理、買取又は移設 |
| 附帯事業 | II 歴史的風致維持向上計画(仮称)の重点区域(仮称)の区域における周辺施設の整備 |
| | 1 歴史的風致を損なっている建造物等の景観上の改善 |
| | 2 歴史的風致形成建造物(仮称)等の活用を促進するための施設の整備 |
| | III 歴史的風致形成建造物(仮称)等の活用に係るソフト事業 |

○ 歴史的風致維持向上計画（仮称）に基づく各種事業の拡充

歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりを強力に支援するため、市町村が作成し、国の認定を受けた「歴史的風致維持向上計画（仮称）」に基づき実施される各種事業について以下の拡充を行う。

事業費 284億円（10.78倍）、国費 116億円（9.57倍）

【都市公園事業】

- ・城跡・古墳・歴史的建造物等の復原整備を都市公園事業の補助対象に追加
- ・公園管理者以外の地方公共団体及び歴史的風致維持向上支援法人（仮称）を都市公園事業の事業主体に追加

【まちづくり交付金】

- ・まちづくり交付金の基幹事業に古都及び緑地保全事業、電柱電線類移設等を追加

【都市再生区画整理事業】

- ・重点地区（補助率1/2）の対象地区に追加するとともに、歴史的まちなみ形成に資する建築物等の敷地上の従前建築物等の移転補償費を補助限度額の積算対象に追加

【都市交通システム整備事業】

- ・都市交通システム整備事業の対象地域に追加

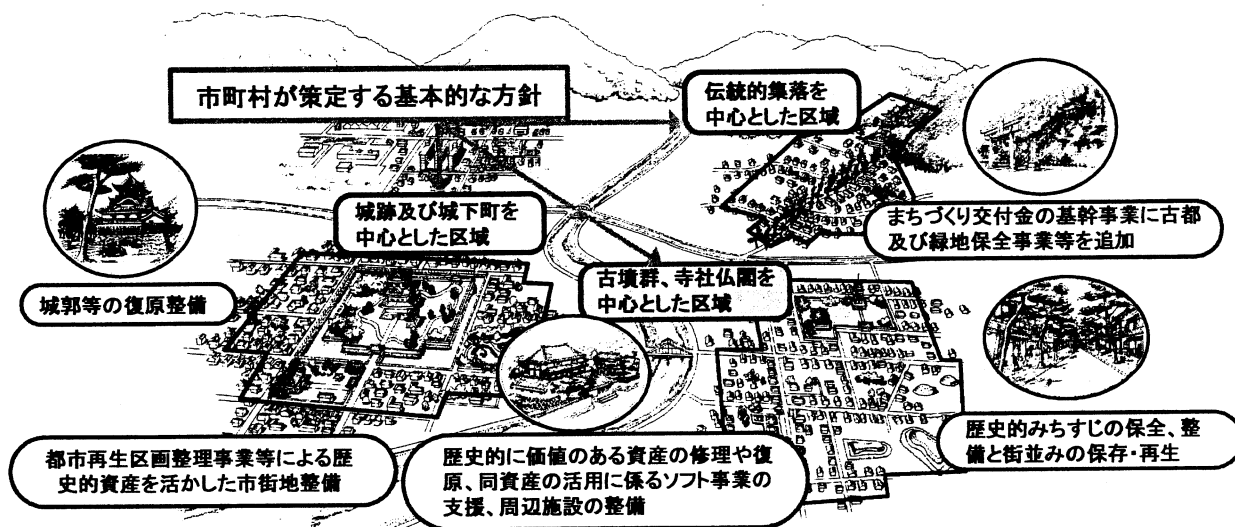
【景観形成総合支援事業】

- ・景観形成総合支援事業の対象地域に追加

【まちづくり計画策定担い手支援事業】

- ・まちづくり計画策定担い手支援事業の対象地域に追加

《 歴史的風致の維持及び向上によるまちづくり推進イメージ 》



施策効果

- ◎ 地域の貴重な歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりの推進により、地域の誇りが育まれるとともに、持続的な地域活性化が図られる。

② 国営飛鳥・平城宮跡歴史公園（仮称）の整備着手

我が国を代表する歴史・文化資産である特別史跡平城宮跡について、一層の保存、活用を図るため、国営飛鳥歴史公園と一体の公園として、「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園（仮称）」平城宮跡区域（仮称）の整備に着手する。

事業費 231億円の内数、 国費 231億円の内数

○ 名称

「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園（仮称）」（国営飛鳥歴史公園を改称）
平城宮跡区域（仮称）

○ 位置

奈良県奈良市

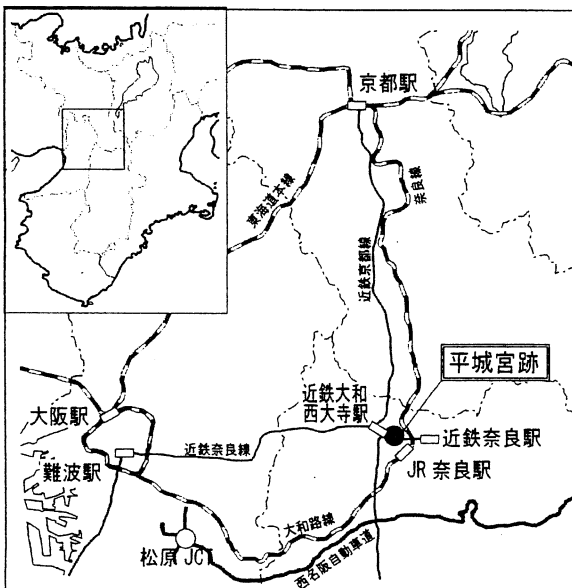
○ 面積

約120ha（但し、国営公園事業で整備する区域は70haに限定する。）

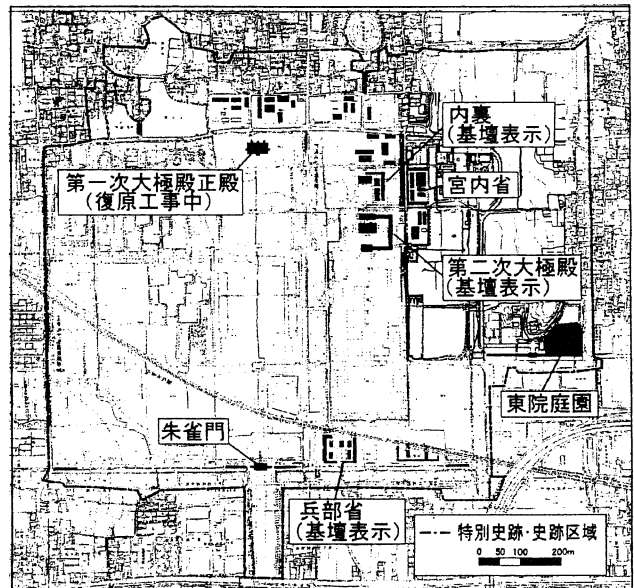
○ 地区の特色

平城宮跡は、文化財保護の観点から、公有地化、発掘調査・研究、朱雀門等の建物復原を含む各種整備が行われてきており、他に類を見ない貴重な歴史・文化資産となっている。これらを活かしつつ、国営公園事業によって環境整備・管理を推進し、我が国を代表する歴史・文化資産の一層の保存・活用を図るものである。

【位置】



【平城宮跡の概要】



施策効果

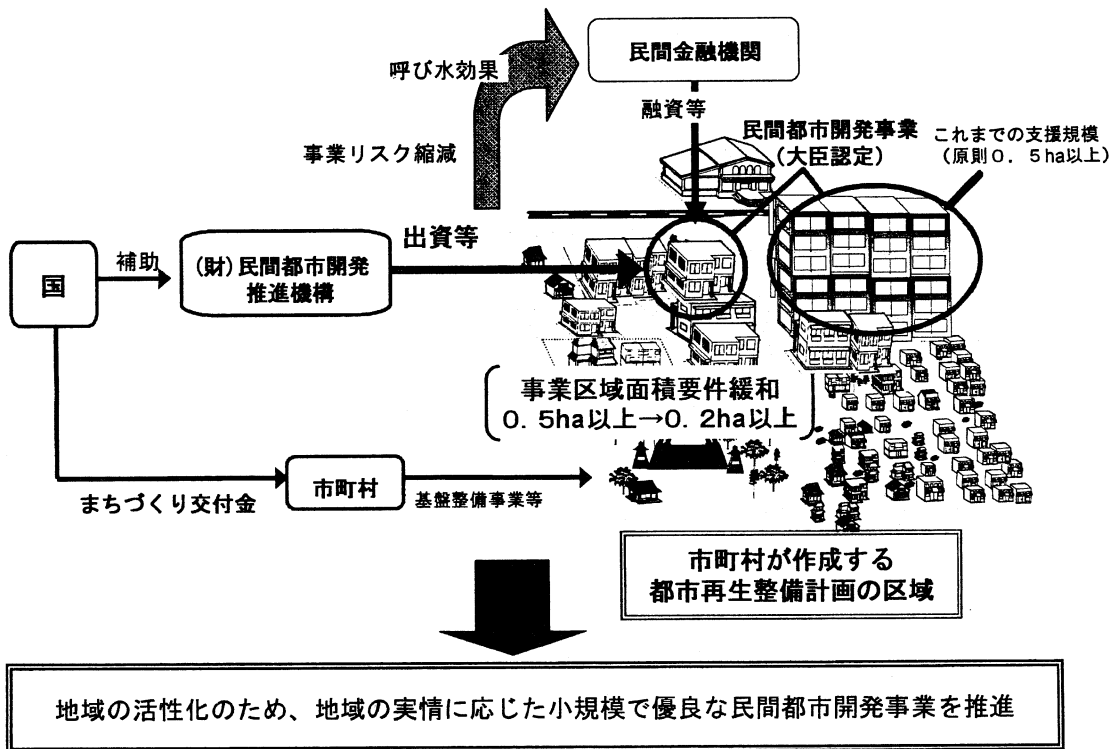
- ◎ 本格的な律令国家体制が形成された時代の都城の歴史と文化にふれあい、学び、体験するための整備・管理を行うことにより、我が国の貴重な歴史的資産を将来に継承する公園づくりが実現する。

③ まち再生出資業務の拡充

地方都市における優良な民間都市開発事業を推進し、地域の活性化を図るため、地域の実情に応じた比較的小規模な事業についても資金調達の円滑化が図られるよう、民間都市開発推進機構のまち再生出資業務に係る事業区域面積要件の緩和を行う。

事業費 52億円（1.09倍）、国費 52億円（1.09倍）

・三大都市圏の既成市街地、近郊整備地帯等の区域及び政令指定都市を除く地域においては、都市再生整備計画の区域内（広域的な地域活性化のための基盤整備に関する法律に基づく重点地区を含む。）における事業区域面積0.2ha以上の民間都市開発事業で国土交通大臣の認定を受けたものに対しても、まち再生出資業務により支援を行うこととする（現行、原則0.5ha以上）。



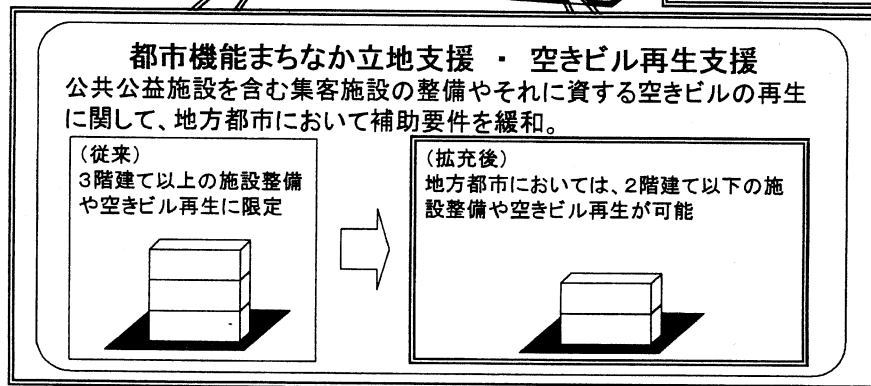
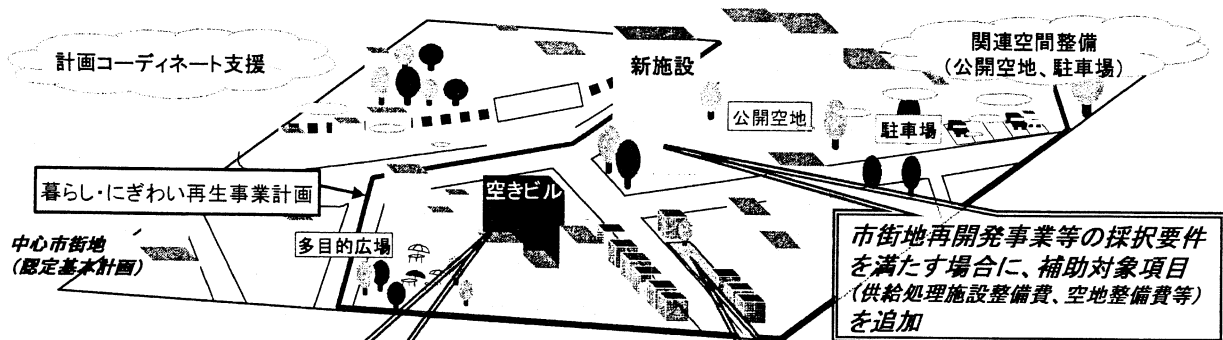
施策効果

- ◎ 要件の緩和により、地方都市において、地域の実情に応じた比較的小規模で優良な民間都市開発事業に対して、民間都市開発推進機構が支援することが可能となり、地方都市の活性化が一層推進される。

④ 中心市街地の活性化

中心市街地の活性化を地域の実情に応じてより効果的に推進するため、暮らし・にぎわい再生事業について、地域固有の特色あるまちなみ等を活かした整備に係る補助要件の緩和、市街地再開発事業等の採択要件を満たす場合の補助対象施設の追加等を行い、支援の強化を図る。

事業費 168億円(1.11倍)、国費 60億円(1.11倍)



施策効果

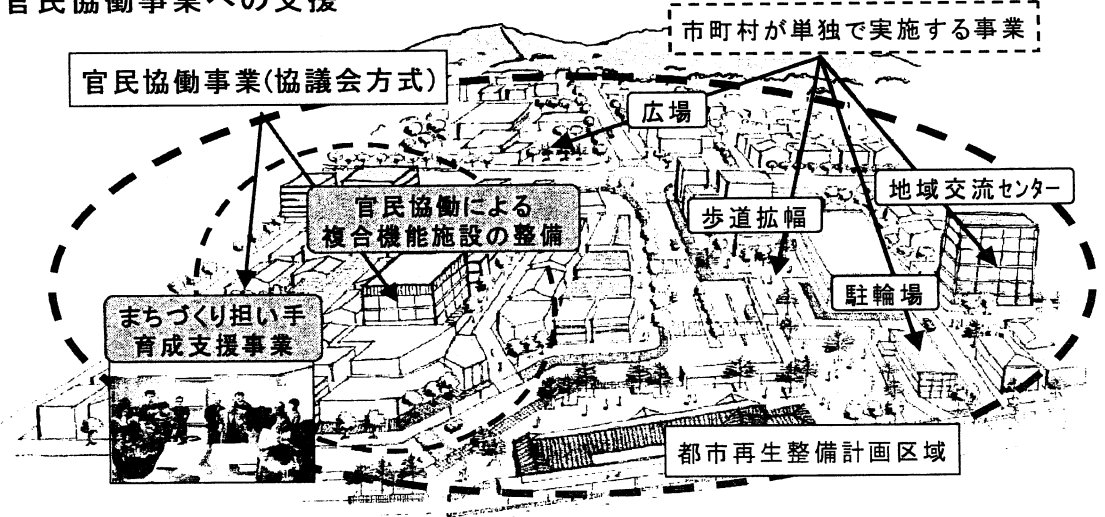
- ◎ 地域固有の特色あるまちなみ等を活かした整備等や市街地再開発事業等の事業手法の活用など、地域の実情に応じた事業実施を可能とすることにより、中心市街地活性化のさらなる推進を図る。

⑤ まちづくり交付金による協働・連携事業への支援の強化

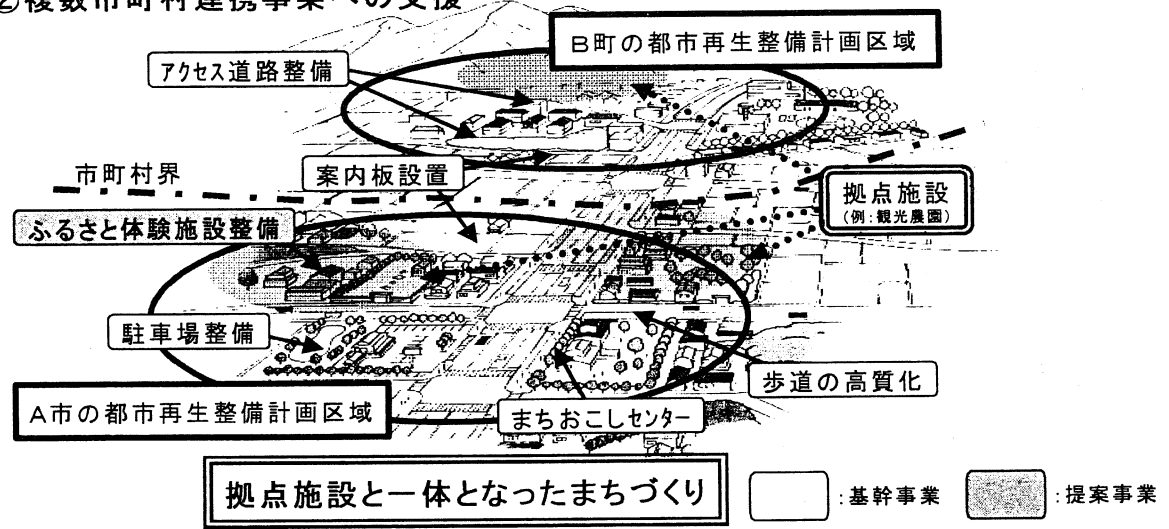
まちづくり交付金により地域の創意工夫を活かした全国都市再生の推進をより一層図るため、事業規模の拡大を図る。さらに、市町村都市再生整備協議会が行う官民協働事業への支援や、複数市町村により一本化された都市再生整備計画に基づき行われる連携事業への支援を強化する。その際、複数市町村が連携し、広域的な地域活性化基盤整備計画に位置付けられた拠点施設と一体的なまちづくりを行う場合も対象とする。

事業費 6,400億円(1.05倍)、国費 2,510億円(1.03倍)

①官民協働事業への支援



②複数市町村連携事業への支援



- 施策効果**
- ◎ 市町村が作成した都市再生整備計画に基づき、総合的・戦略的に事業を実施することにより、通常の事業では得ることのできない相乗効果・波及効果が得られる。
 - ◎ 地域の担い手のニーズを反映させることで自主性に富んだまちづくりが行われるとともに、複数の市町村が連携することでより効率的・効果的なまちづくりが行われる。

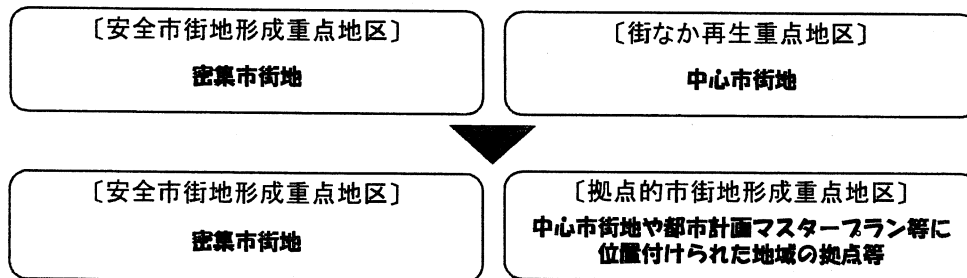
⑥ 集約型都市構造への転換・既成市街地の再整備の推進

人口減少・超高齢社会に対応するため、拡散型の都市構造からコンパクトな集約型の都市構造への転換が求められている。しかしながら、拠点としての役割が期待される駅周辺や中心市街地等では、基盤整備の不足や土地の細分化等により低密度な利用にとどまっている。

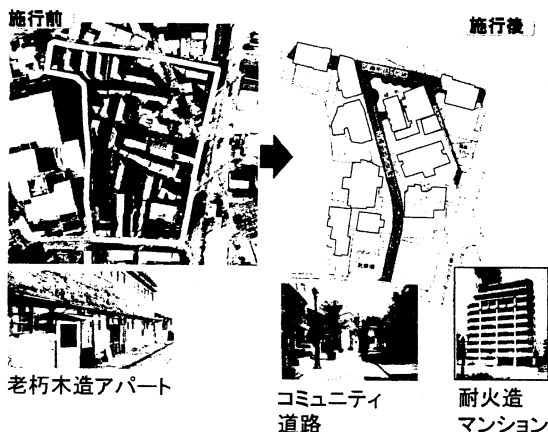
そこで、都市基盤整備施設の整備とあわせて街区の再編を行い、都市機能の集積、土地の有効利用を促進し、集約型都市構造への転換・既成市街地の再整備を推進するため、都市再生区画整理事業について、重点地区（補助率1/2）の対象に都市再生緊急整備地域や都市計画マスタープラン等において位置付けられた地域の拠点等を追加するとともに、既成市街地における事業への支援の重点化等を行う。

事業費 81億円（0.98倍）、国費 36億円（0.98倍）

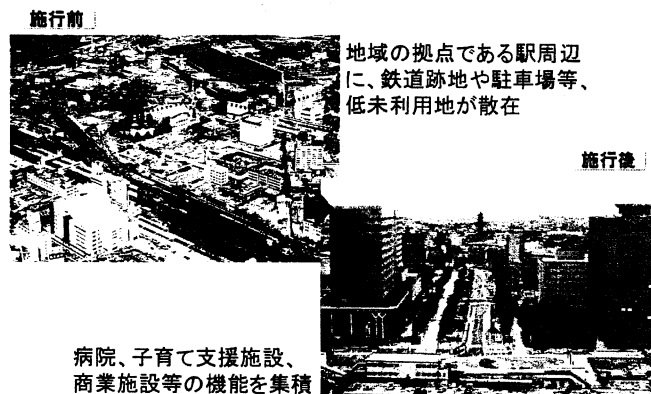
重点地区（補助率1/2）



<密集市街地の解消のイメージ>



<拠点的市街地形成のイメージ>



施策効果

- ◎ 都市機能の集積した拠点的市街地の形成、密集市街地の解消を図り、人口減少・超高齢社会に対応した集約型都市構造への転換に資する。

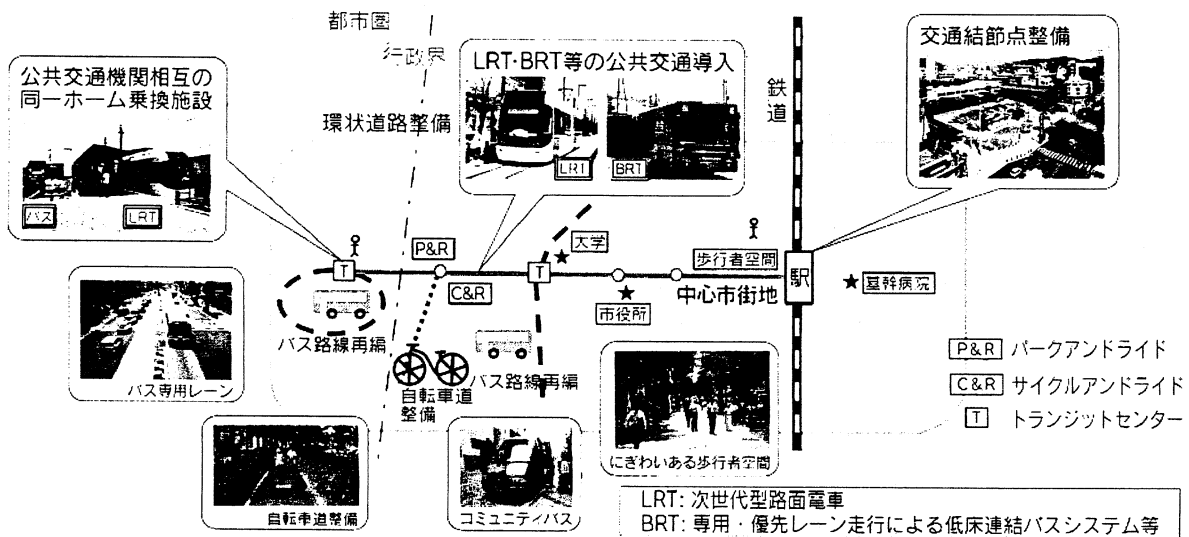
⑦ 総合的な都市交通の戦略に基づく施策の推進

都市・地域の魅力ある将来像の実現と安全で円滑な交通の確保のため、都市交通施策の総合的な取組を促進する。

事業費 1,244億円(1.02倍)、国費 657億円(1.03倍)

- 関係者で構成される協議会等による都市・地域総合交通戦略の策定や、戦略に基づくLRTの整備、交通結節点の改善、駐車場整備、徒歩・自転車による移動環境の整備等の取組を総合的に支援

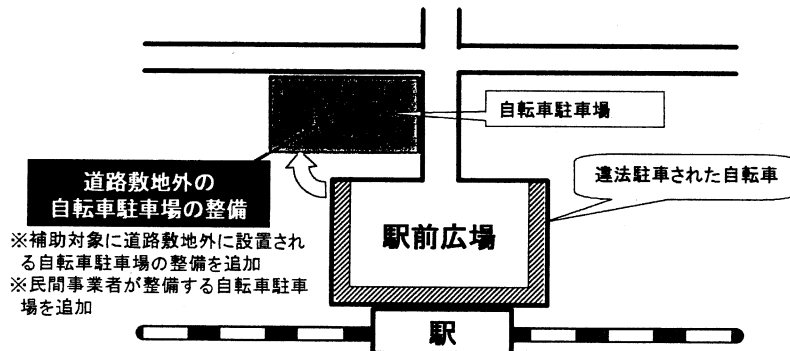
<総合的な交通連携の施策・事業の展開イメージ>



【交通結節点改善事業の拡充】

- ・ 放置自転車を解消し、歩行空間の確保や自転車・自動車交通の円滑化を図るため、交通結節点改善事業のうち、結節点環境改善事業の補助対象に自転車駐車場の整備を追加

<交通結節点近傍における道路敷地外の自転車駐車場の整備のイメージ>



施策効果

- ◎ 徒歩・自転車・自動車・公共交通の適正分担が図られ、交通の円滑化・利便性が向上する。
- ◎ 基幹的な公共交通が利用可能となる人口の集積が促進される。

⑧ 踏切対策のスピードアップ

「開かずの踏切」等の対策を早期に実施するため、連続立体交差事業等による踏切の除却対策と歩道拡幅等による踏切交通の安全対策を緊急かつ重点的に推進する。

事業費 2,332億円(1.01倍)、国費 1,252億円(1.00倍)

【除却対策】

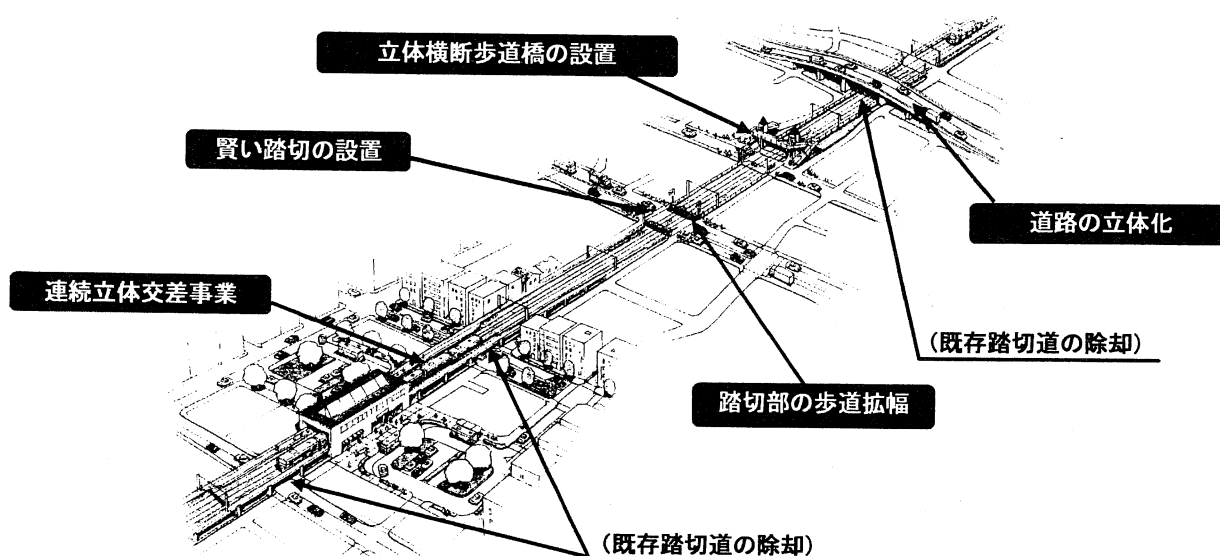
- 開かずの踏切(約600箇所)と交通が集中する踏切(約800箇所)の約1,400箇所に対して、連続立体交差事業や道路の立体化等により集中的に踏切を除却する対策を実施
- 踏切制御に係るシステムの高度化、工期短縮に向けた高架化技術の検討等道路交通の円滑化に資する鉄道施設等の改良に係る検討を実施

【安全対策】

- 安全上課題のある踏切(約1,900箇所)に対して、歩道拡幅や立体横断歩道橋の設置等の安全対策を集中的に実施

- ・開かずの踏切：電車の運行本数が多い時間帯において、遮断時間が40分/時以上となる踏切
- ・交通が集中する踏切：開かずの踏切より遮断時間は短いものの、自動車や歩行者が集中していること等により、交通に大きな支障となっている踏切のことで、1日の踏切交通遮断量が5万台時以上の踏切、又は、自動車交通量に歩行者、自転車を加えた1日の踏切交通遮断量が5万台人時以上の踏切のうち、歩行者と自転車のみ遮断量が2万台人時以上である踏切
- ・歩道が狭い踏切：前後の道路よりも歩道が狭い踏切
- ・安全上課題のある踏切：開かずの踏切、交通が集中する踏切、歩道が狭い踏切

◇踏切対策のイメージ◇



施策効果

- ◎ 平成20年度からの10年間で、特に渋滞対策効果が高い約400箇所の踏切を除却する。
- ◎ 平成20年度からの10年間で、安全上課題のある踏切を全て解消する。

⑨ 下水道事業における市町村合併支援措置の延伸等

行政の効率化等の観点から、政府として市町村合併を推進しているところである。一方、公共下水道の管きよの補助対象範囲は、市町村規模が小さくなるほど補助が手厚くなるよう設定されており、合併により市町村規模が大きくなると、補助対象範囲が縮小されることとなる。

近年、政府の方針に従い、多くの市町村が合併しているが、下水道事業を実施している市町村が、合併により不利益を生じることのないよう補助の特例措置を延伸する。また、地域活性化等の観点から、下水道の普及率の地域間格差の解消に向け、比較的整備が遅れている中小市町村の整備促進に向けた補助対象範囲の見直しを行う。

【概要】

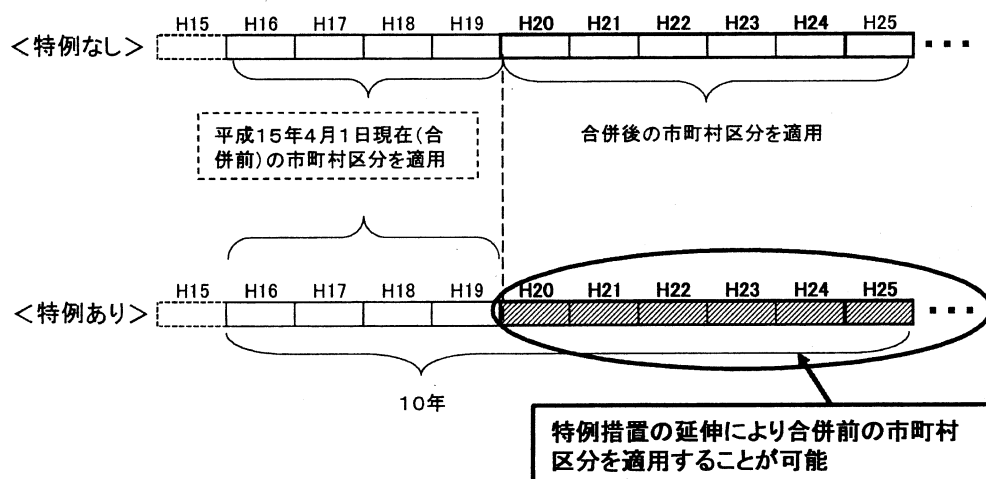
- 公共下水道の管きよの補助対象範囲を定める際の市町村区分の適用に関する特例措置を以下のように延伸する。

平成13年3月9日以降に市町村の合併をした市町村については、平成27年度までを期限として、市町村の合併をした日から起算して10年を経過する日の属する年度の末日までの間は、当該市町村の合併前の市町村の区分を適用できるものとする。

- 財政力の弱い中小市町村における下水道整備を促進するため、公共下水道の管きよの補助対象範囲の見直しを行う。

<特例措置の延伸のイメージ>

(例)平成16年4月1日に合併した市町村の場合

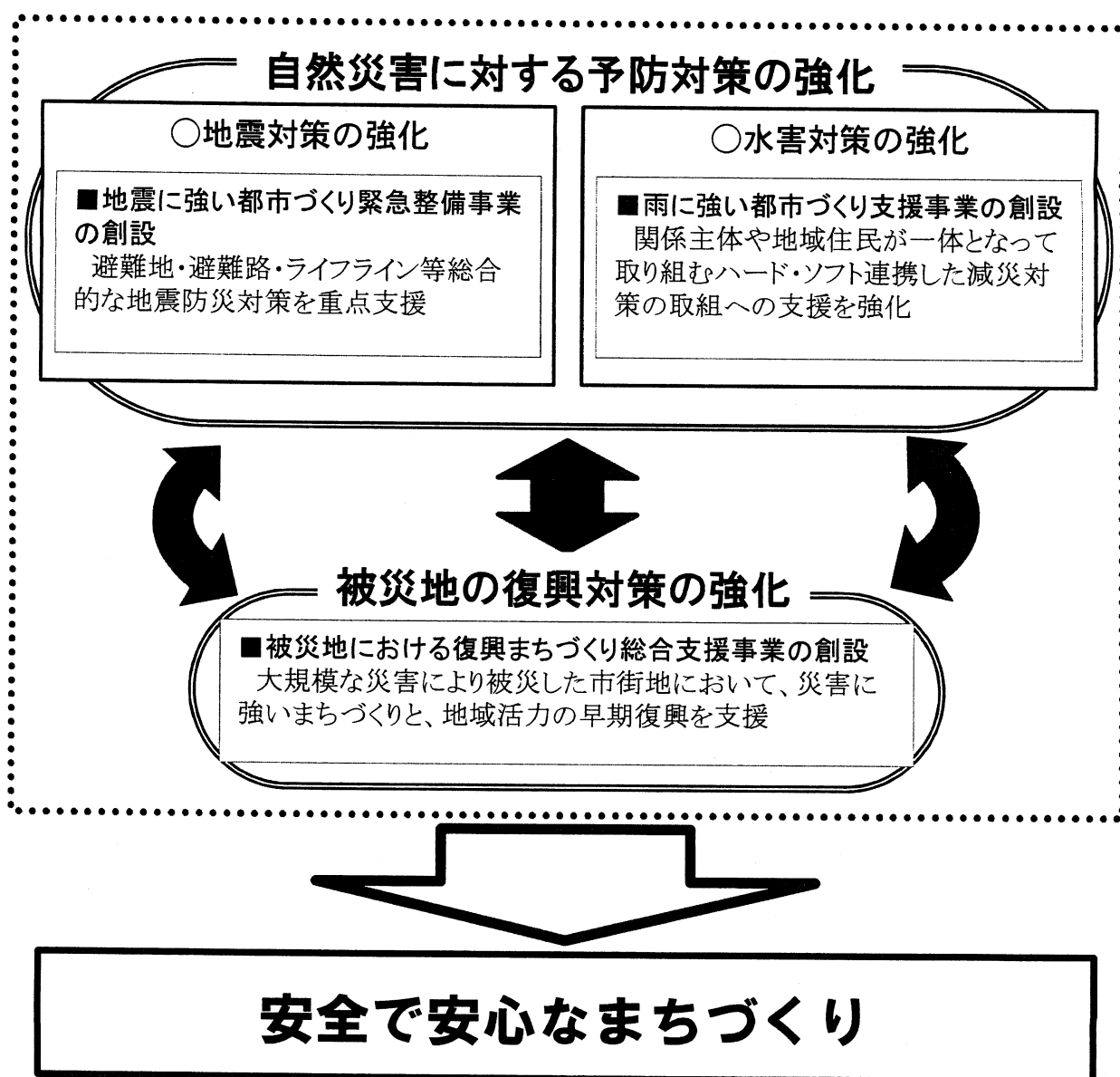


施策効果

- ◎ 合併支援措置を延伸することにより、市町村合併に伴う不利益の解消に資する。また、中小市町村等における未普及解消が促進される。

(2) 安全で安心なまちづくりの推進

能登半島地震・新潟県中越沖地震等の大規模地震や、頻発・大型化する台風等により、近年大規模な災害が多発している。我が国では、いつどこで地震や台風等の自然災害が発生してもおかしくなく、国民の安全と安心の確保は安定した国民生活、経済活動の基盤であるとの基本認識の下、自然災害に対して強靱な国づくりを進めていく必要がある。このため、地震・水害に対する予防対策の強化を図るとともに、被災したまちの活力ある早期復興を支援することにより、安全で安心なまちづくりを推進する。



① 被災したまちの早期復興等

能登半島地震・新潟県中越沖地震において被災した地域では、商店街や風情あるまちなみに大きな被害が発生し、地域の活力を早期に取り戻すことが喫緊の課題となっている。また、大規模地震が日本全国でいつ発生してもおかしくないということが再認識され、大規模地震に備えた対策を緊急かつ総合的に推進することが求められている。

このため都市防災総合推進事業において以下の拡充を実施し、被災したまちの早期復興及び地震に強いまちづくりの緊急かつ総合的な実施を支援する。

○ 被災地における復興まちづくり総合支援事業の創設

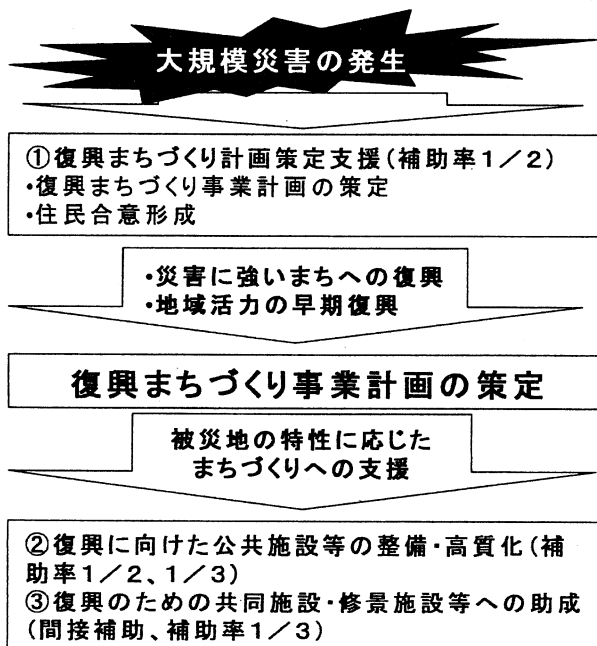
大規模な地震、水害等により被災した地域において、災害に強いまちづくりと地域活力の早期復興を図るため、地方公共団体による復興のための計画策定に対し支援を行うとともに、計画に位置付けられたまち全体の活力ある復興のために必要な施設整備等に対し支援を行う。

○ 地震に強い都市づくり緊急整備事業の推進

総合的な地震防災対策を緊急に推進するため、市町村が「地震に強い都市づくり推進5箇年計画」を策定した場合に、同計画に位置付けられた避難路・避難地・ライフライン等の整備について、各種事業により重点実施を行うとともに、補助対象施設を拡充する。

事業費 10億円（皆増）、国費 5億円（皆増）

○被災地における復興まちづくり総合支援事業



○地震に強い都市づくり緊急整備事業



施策効果

◎ 大規模地震に備えた事前対策、被災後の復興対策の両面から、緊急かつ総合的な取組に対する支援を強化することにより、大規模地震等に伴う人的・経済的被害を軽減するとともに、被災地の活力ある早期復興を図る。

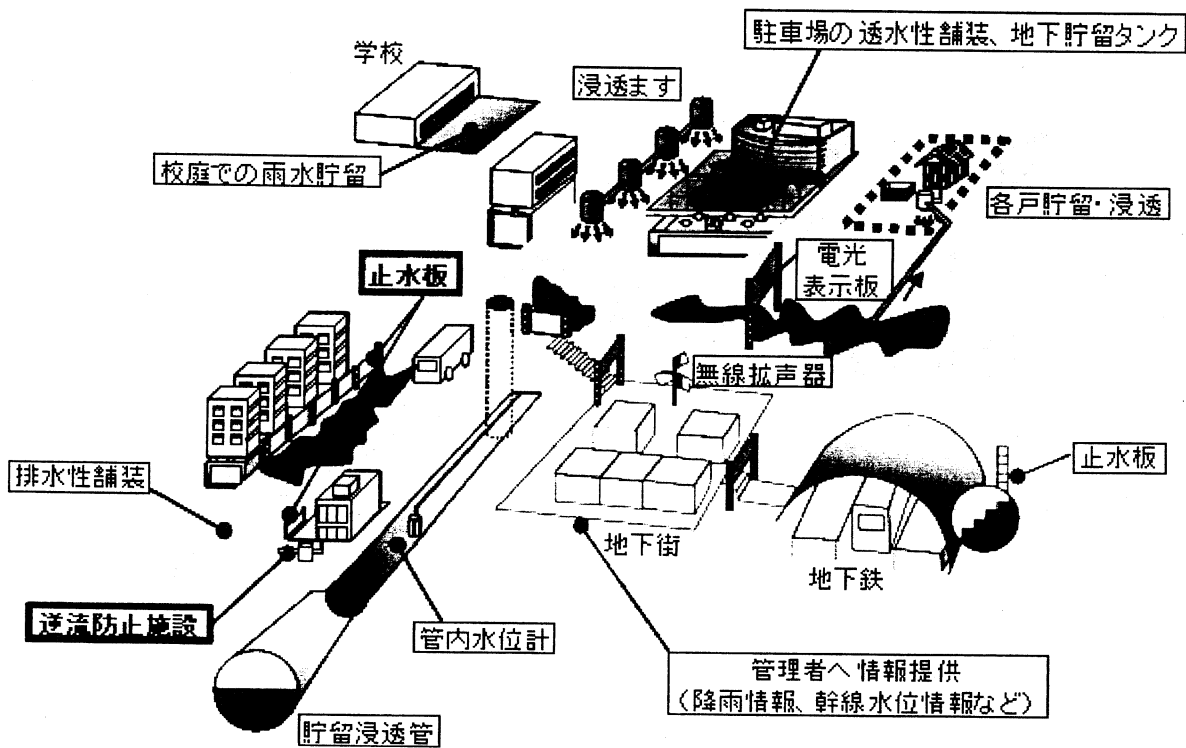
② 雨に強い都市づくり支援事業の創設

近年、激しい集中豪雨の多発や都市化の進展に伴い、短時間に大量の雨水が流出することによる内水氾濫の被害リスクが増大している。このような状況の下、被害を最小化するためには、ハード中心の対策から、住民自らの災害対応やこれを支援するソフト対策を組み合わせた総合的な対策へと転換するとともに、ハード対策についても、「雨水の排除」を主体とした方策を転換し、「貯留浸透による流出抑制」を的確に組み合わせて、地域の関係者が一体で取り組むことが求められている。

以上を踏まえ、ソフト対策を組み合わせた効率的な浸水対策を推進し、雨に強い都市づくりを実現するため、関係主体が一体となった計画策定に要する経費を補助対象とするとともに、民間による被害軽減対策（自助）への支援につき、補助対象を拡充する。

事業費 46億円（皆増）、国費 20億円（皆増）

<雨に強い都市づくりのイメージ>



施策効果

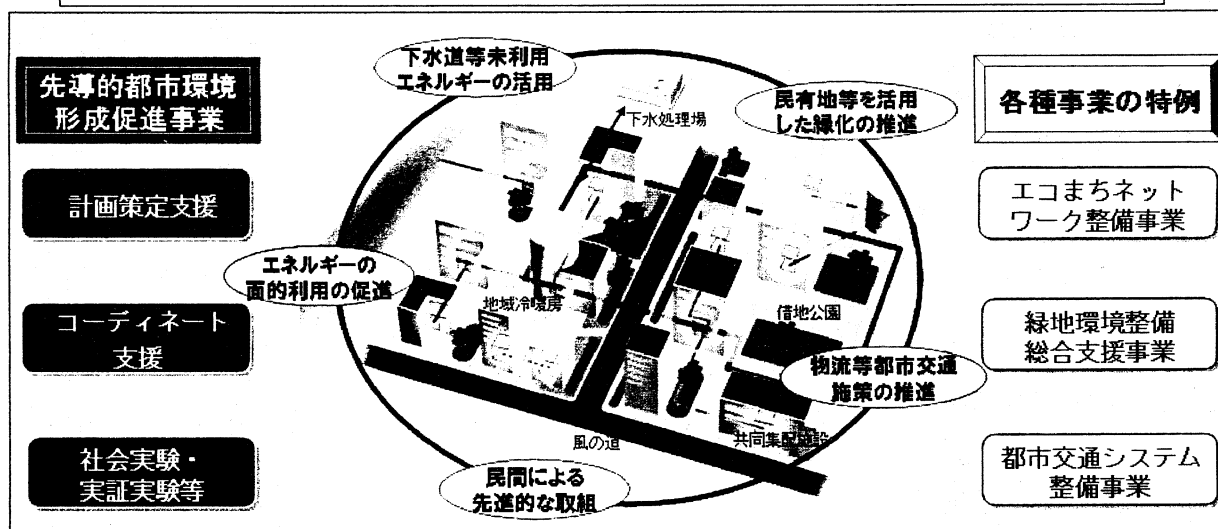
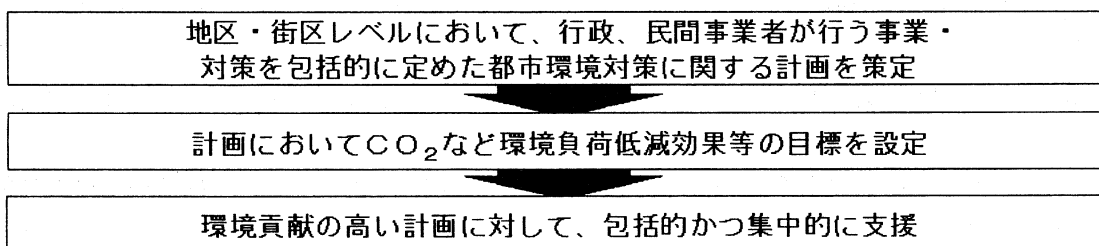
- ◎ 関係機関が一体となって雨水流出抑制などの被害軽減対策に取り組むことにより、一層効果的に浸水被害の最小化が図られる。

(3) 地球環境問題に対する取組の推進

① 先導的都市環境形成総合支援事業の創設

集約型都市構造の実現に資する拠点的市街地等において、地区・街区レベルにおける先導的な環境負荷削減対策を強力に推進するため、エネルギーの面的利用の促進、民有地等を活用した緑化の推進、都市交通施策の推進に向けた支援制度の拡充を図るとともに、計画策定、コーディネート及び社会実験・実証実験等に対する新たな支援措置を創設する。

《拠点的市街地等における地区・街区レベルの先導的な都市環境対策》



施策効果

- ◎ 集約型都市構造の実現に資する拠点的市街地等において、行政、民間事業者の行う地区・街区レベルの先導的な都市環境対策を総合的に支援することにより、省CO₂型都市の実現が図られる。

「先導的都市環境形成計画」に位置付けられた事業・対策を支援するため、以下の制度を創設・拡充する。

○ **先導的都市環境形成促進事業の創設（行政経費）**

公民が一体となった先導的な都市環境対策を強力に支援するため、計画策定、コーディネート及び社会実験・実証実験等に対する新たな支援措置を創設する。

事業費 6.4億円（皆増）、国費 3.0億円（皆増）

【計画策定費補助】

先導的都市環境形成計画の策定に要する経費に対する補助

【コーディネート事業費補助】

都市環境対策の実施に向けて関係者の合意形成を図るために必要な調査検討等に要する経費に対する補助

【社会実験・実証実験等実施費補助】（5年間の限定措置）

先導的な対策の本格実施に先立ち必要な社会実験、実証実験、ソフト活動等に要する経費に対する補助

○ **各種事業の特例**

「先導的都市環境形成計画」に位置付けられた場合は、各事業において次の特例を設ける。

事業	特例の内容	概要
エコまちネットワーク整備事業	・地区要件の追加 ・補助対象施設の拡充	エネルギー面的利用のさらなる推進を図るべく、事業実施地区に「先導的都市環境形成計画」策定地区を追加するとともに、都市計画に位置付けられた地域冷暖房施設を補助対象施設に追加する。
緑地環境整備総合支援事業	・民間事業者を事業主体に追加	街区全体で総合的かつ重点的な緑化を推進すべく、民間事業者等が、高木を含む緑化率が80%以上の公園で緑化面積が500㎡以上のものを借地公園として整備する場合に支援する。
都市交通システム整備事業	・地区要件の追加	事業実施地区に「先導的都市環境形成計画」策定地区を追加し、省CO ₂ 型の都市づくりに資する都市交通施策の推進に必要な公共交通の施設や駐輪場等、都市の交通システムの整備に対して支援する。

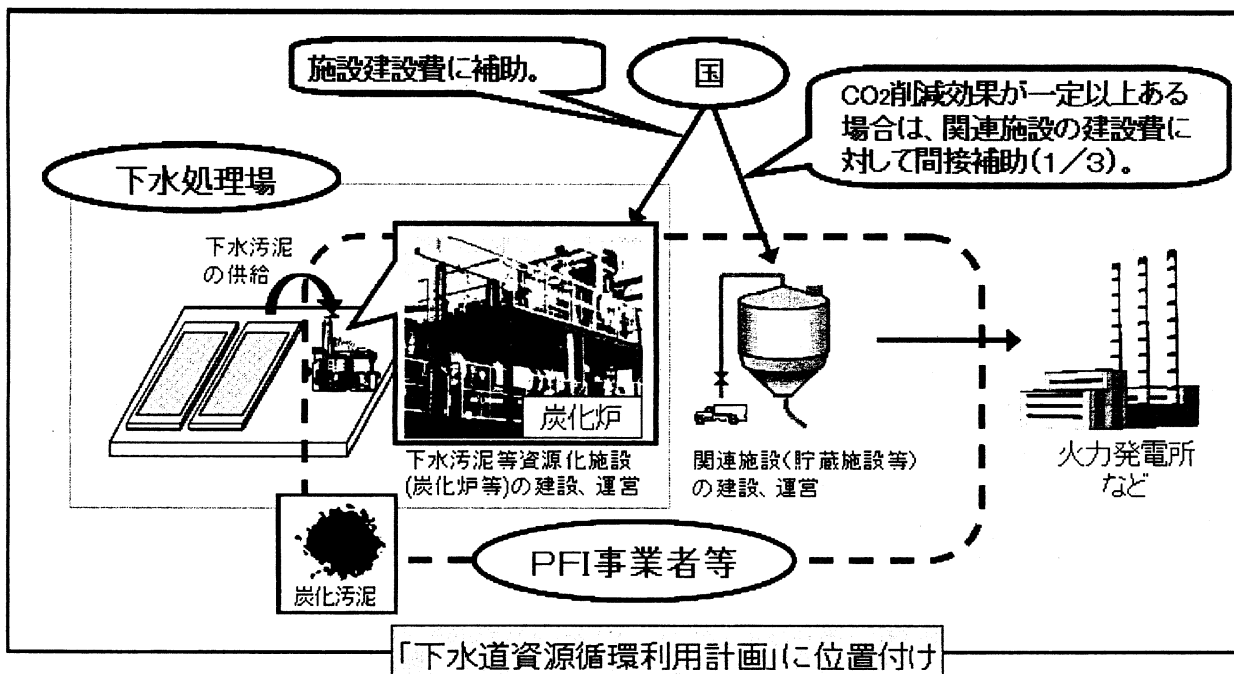
② 民間活用型地球温暖化対策下水道事業制度の創設

地球温暖化や世界的な資源・エネルギー需給の逼迫が懸念されており、持続的発展を維持する観点から、循環型社会への転換が求められている。

都市活動から発生する下水は、豊富な資源・エネルギーを有しており、下水を処理することで発生する下水汚泥については、廃棄物として捉えるのではなく、バイオマスとして資源化・再利用することにより、地球温暖化防止等に貢献していく必要がある。

以上を踏まえ、下水汚泥等の資源化、流通、販売、利用を一体的に捉え、民間企業の有するノウハウを最大限活用することにより、下水汚泥等の資源・エネルギー利用を推進するため、下水汚泥等の循環利用に関する計画の策定経費を補助対象とするとともに、同計画に基づき、PFI手法により民間事業者が資源化を前提とした下水汚泥等の処理施設を建設する際に、地方公共団体への補助を通じて支援する。また、一定のCO₂削減効果が見込める場合には、処理施設と関連して民間事業者が整備する貯蔵施設等を補助対象（間接）とする。

事業費 2億円（皆増）、国費 1億円（皆増）



施策効果

- ◎ 民間企業の有するノウハウを最大限活用することにより、下水汚泥等の資源・エネルギー利用を推進し、循環型社会の形成や地球温暖化対策の推進に貢献する。

(4) 活力ある地域の実現

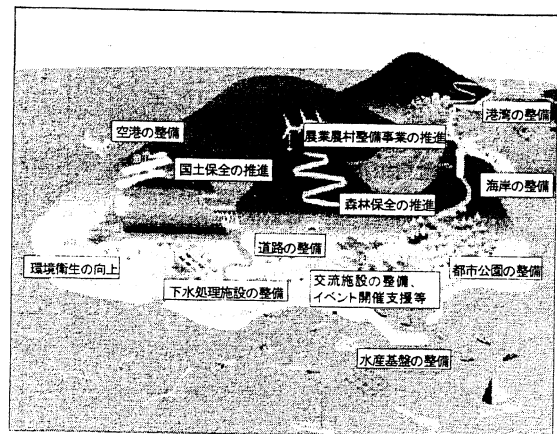
1) 地域の資源や創意工夫を活かした自立的発展の促進

① 離島地域の振興

離島地域が我が国の領域、排他的経済水域等の保全、海洋資源の利用、自然環境の保全などの重要な役割を担う観点から、当該地域の自立的発展を促進するため、各地方公共団体が定めた離島振興計画に基づく事業に対し、その内容の独自性及び熟度に応じて、引き続き重点的な支援を行う。

離島振興計画の実施に係る経費のうち公共事業については、地域毎に総合的な整備効果を効率的に発揮する観点から、地域の要望を十分に踏まえつつ、引き続き一括計上により対応し、離島における「交通基盤」、「産業基盤」、「生活環境」、「国土保全・防災対策」について重点的な整備を推進する。

また、ソフト事業施策についても、地域の創意工夫により地域資源を活用する取組を支援するため、広域的かつ多面的な地域間交流の促進や島づくりのための人材育成等の各種事業・調査の充実を図る。特に平成20年度においては、「国境周辺離島等の担う国家的役割の評価等に関する調査」、「離島におけるUJIターン支援モデル調査」及び「離島の総合交流推進支援事業」を実施し、有人離島の果たす役割について検討し、国家的見地からみた存在意義を明確化するとともに交流人口の拡大を促進する。



【離島振興事業のイメージ】

○ 離島振興予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
離 島 振 興 事 業 費 (公 共 事 業)	124,444	77,934	139,433	87,565	0.89	0.89
離 島 体 験 滞 在 交 流 促 進 事 業	366	183	364	182	1.01	1.01
離 島 振 興 対 策 等 調 査 費	57	57	60	60	0.95	0.95
合 計	124,867	78,175	139,858	87,808	0.89	0.89

- (注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 5,204百万円、国費 3,172百万円を含む。
 2. 公共事業の事業費の財源には、社会資本整備事業特別会計空港整備勘定の空港使用料を含む。
 3. 本表における計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。

② 奄美群島の振興

奄美群島においては、我が国への復帰以降諸施策が講じられ、相応の成果をあげてきたが、本土から隔絶した外海離島という地理的条件、厳しい自然的条件下にあって、本土等との間に諸格差がまだ残されており、住民の生活の安定及び福祉の向上に引き続き取り組む必要がある。平成16年には、奄美群島振興開発特別措置法の所要の改正が行われ、奄美群島の優位性を伸ばすという視点を明確にして、同法及び国が策定した基本方針に基づき鹿児島県が策定した振興開発計画に基づく各種振興開発事業を展開している。

平成20年度においては、奄美群島の特性を活かした地域の主体的な取組を支援し、地域が抱える諸課題を克服しつつ、新たな産業の育成や観光の開発等による地域の自立的発展に向けた環境づくりを推進するため、ソフト施策とハード施策を一体的に実施する総合的な施策を展開する。

- ・主要地方道安脚場実久線、名瀬港、沖永良部国営かんがい排水事業等の社会資本整備の一層推進
- ・観光拠点施設の整備等による他地域との交流の促進等
- ・産業振興、人材育成支援、環境保全対策等の事業や調査等の実施

○ 奄美群島振興開発予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
奄美群島振興 開発事業費 (公共事業)	(40,885) 40,558	(29,978) 29,651	42,683	30,966	(0.96) 0.95	(0.97) 0.96
奄美群島振興 開発調査等	163	115	169	118	0.96	0.97
奄美群島産業 振興等事業費	581	256	575	253	1.01	1.01
奄美農業創出 支援事業費	176	88	181	91	0.97	0.97
合 計	(41,805) 41,478	(30,436) 30,109	43,608	31,427	(0.96) 0.95	(0.97) 0.96

- (注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 1,284百万円、国費 841百万円を含む。
 2. 公共事業の事業費の財源には、社会資本整備事業特別会計空港整備勘定の空港使用料を含む。
 3. 本表における計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。
 4. 上段()書きは、農林水産省計上予算(327百万円)を含んだ計数である。

③ 小笠原諸島の振興

昭和43年に本土に復帰した小笠原諸島の特殊事情に鑑み、国が策定した基本方針及び東京都が策定した振興開発計画に基づく各種振興開発事業に対し、地元の要望を十分に踏まえ、所要の整備を推進する。特に、平成18年度の基本方針及び振興開発計画の変更を受け、観光振興等の充実強化を図るための施策を実施する。

平成20年度においては、診療所と高齢者の入所施設を併せた複合施設の整備、自然公園の利用促進を図るための遊歩道の整備や植生回復、電線類の地中化による街並み景観整備等、所要の整備を行う。また、多様な観光客層の受入や世界自然遺産登録に向けた各種施策を実現するための社会実験等を実施する。

○ 小笠原諸島振興開発事業等予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
小笠原諸島振興 開発事業費補助	2,425	1,325	2,337	1,381	1.04	0.96
小笠原諸島振興 開発費補助金等	267	187	265	186	1.01	1.00
合 計	2,692	1,512	2,602	1,567	1.03	0.97

④ 半島地域の振興

半島地域の自立的発展を目指し、地域の多様な資源を活用した産業の創出につながる自主的かつ継続的な地域づくり活動を活発化させるとともに、都市と半島地域、半島地域間の交流・連携を促進する。また、三方を海に囲まれ、平地に恵まれない半島地域固有の課題の把握と解決策の検討を行い、半島振興施策の推進に資する。

○ 半島振興対策予算額

(単位：百万円)

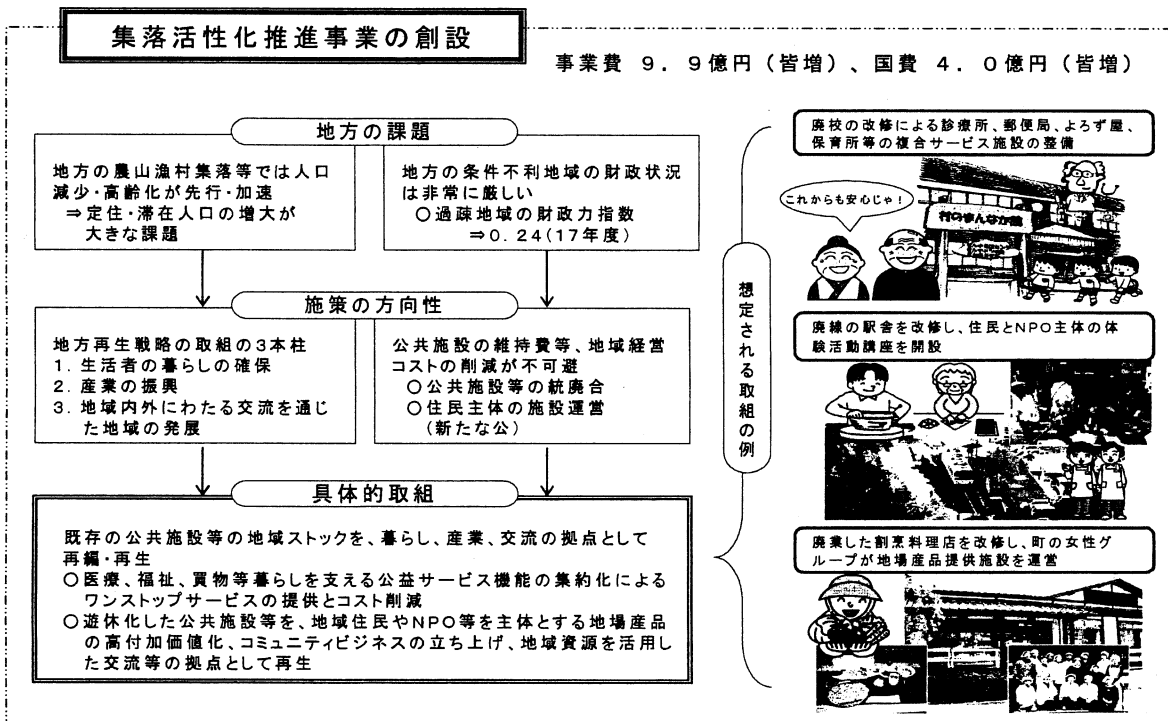
区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
半島振興対策費	64	64	66	66	0.97	0.97

⑤ 豪雪地帯対策の推進

豪雪地帯においては人口減少、高齢化が進んでいることから、山間地等、集落機能が低下している地域の集落の安全安心を確保するための選択肢として、今後の集落の移転や冬期間の集落単位での移住の可能性等について調査を行う。また、克雪施設と克雪体制の一体的な整備等、安全安心な雪国の創造に資する事業を支援するなど、地域ぐるみでの安全かつ効率的な雪処理方策についての対策を推進する。

⑥ 地方における交流・定住の促進等による地域活性化の推進

地方の条件不利地域における公益サービスの維持確保、産業の活性化及び地域間交流の促進を図るため、市町村・NPO等が行う既存ストックを活用した施設整備等を支援する集落活性化推進事業を新たに創設するとともに、都市と農山漁村との共生・対流のあり方、持続可能な生活圏域の形成について検討する。また、地域再生を担う人づくりの強化、地域における再チャレンジのための人材受入れ体制の整備を図るとともに、個性を活かした地域づくりの支援、UJIターンの促進等により地方公共団体等の魅力ある地域づくりを支援する。



○ 豪雪地帯対策及び集落活性化推進経費等予算額

(単位：百万円)

区分	平成20年度(A)		前年度(B)		倍率(A/B)	
	事業費	国費	事業費	国費	事業費	国費
豪雪地帯対策費	295	171	300	176	0.98	0.97
集落活性化等推進経費	1,198	610	1,309	622	0.92	0.98

2) 大都市圏の整備の推進

事業費 3.4億円(0.99倍)、国費 3.4億円(0.99倍)

① 大都市圏における諸課題への対応

大都市圏の整備に当たり以下のような広域的かつ分野横断的な課題について調査・検討を行い、人口減少・産業構造の変化に対応した大都市圏構造の形成を促進する。

○ 安全・安心の確保(防災対策)

帰宅困難者対策、リダンダンシーの確保等により、都市機能の集積に応じて高まる災害等に対する脆弱性を解消

○ 都市の活力の維持・増進

人流・物流の効率化、都市構造の再編、テレワークの推進等により、人口減少や少子高齢化が進展する中にあっても都市の活力を維持・増進

○ 良好な都市環境の形成

水と緑のネットワークの形成、琵琶湖の総合的な保全等により、失われた緑と水辺空間を再生し、快適で潤いのある都市空間を形成

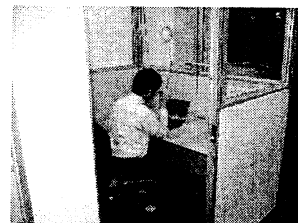
テレワーク推進モデル事業

テレワークは、情報通信技術を活用した場所と時間にとらわれない柔軟な働き方であり、高齢者・障害者・育児や介護を担う者の就労機会の創出、ワーク・ライフ・バランス向上に加えて、大都市圏への一極集中是正、地域活性化の推進等といった様々な効果が期待されている。

テレワークの普及を促進するため、職場や自宅以外の就労を可能にする、テレワークセンターの社会実験、大都市の企業のテレワーク導入や地方のテレワークを推進するためのワークショップ、普及啓発活動等を実施する。



テレワークセンター(イメージ)



センターでの業務風景(イメージ)

② 文化・学術・研究拠点整備の推進

我が国の文化学術研究分野の中核機能を担う筑波研究学園都市及び関西文化学術研究都市において、まちづくりをはじめ、文化、学術、産業の各分野における拠点性の向上を図るための取組を先導的かつ強力に推進する。

③ 大深度地下利用の推進

公共の利益となる事業の円滑な遂行、大深度地下の適正かつ合理的な利用を推進するための調査等を実施する。

5. 重点施策推進要望に係る施策

I 国際競争力の強化と地域の活性化

○ 歴史・文化を活かしたまちづくり支援 10,000百万円

国の認定を受けた「歴史的風致維持向上計画（仮称）」に基づく事業を行う地区で一定の要件を満たす場合において、まちづくり交付金の基幹事業に古都及び緑地保全事業、電柱電線類移設等を追加し、市町村の創意工夫をより一層活かした取組を支援する。

○ 歴史的資産を核とした魅力あるまちづくりの推進（行政経費） 730百万円

国の認定を受けた「歴史的風致維持向上計画（仮称）」に基づき実施される歴史的風致形成建造物（仮称）の復原・修理等を中心としたハード・ソフト両面にわたる取組を総合的に支援する。

○ 中心市街地の活性化 6,000百万円

地域の実情に応じた多様な取組による中心市街地の活性化を強力に推進するため、地域固有のまちなみを活かした整備・改修や市街地再開発事業等を活用した防災安全性の確保、都市機能の更新等を促進する。

○ テレワーク推進モデル事業（行政経費） 70百万円

情報通信技術を活用した場所と時間にとらわれない柔軟な働き方であるテレワークについて、高齢者、障害者、育児や介護を担う者など多様な人々を対象に普及する取組を強化することにより、ワーク・ライフ・バランスの実現、大都市圏への一極集中是正、地域活性化の推進等を図る。

II 地球環境問題等への対応

○ 下水汚泥の資源・エネルギー循環の推進等 13,793百万円

地球温暖化防止に寄与するため、豊富な資源・エネルギーポテンシャルを有している下水汚泥等をエネルギー利用（バイオガスや汚泥燃料等）するための施設整備を推進する。また、下水汚泥の焼却過程で発生する温室効果ガスである一酸化二窒素（ N_2O ： CO_2 の310倍の温室効果）の抑制を目的とした高温焼却施設（平成20年度に完成予定）等の整備を重点的に推進する。

○ **CO₂吸収源対策に資する都市緑化の推進** **300百万円**

CO₂吸収源対策の推進の観点から、地区全体の緑化の目標を定めた「先導的都市環境形成計画」の区域において、民有地等を活用した緑化の推進を図る。

○ **既成市街地における都市環境形成促進経費（行政経費）** **300百万円**

都市機能が集積し、CO₂排出量が多い既成市街地において、地区・街区レベルにおける先導的な環境負荷削減対策を強力に推進するため、エネルギーの面的利用の促進、民有地等を活用した緑化の推進、都市交通施策の推進に向けた支援制度の拡充を図るとともに、計画策定、コーディネート及び社会実験・実証実験等に対する新たな支援措置を創設する。

III 国民の安全・安心の確保

○ **密集市街地の緊急整備** **2,000百万円**

重点密集市街地において、都市計画道路の整備や沿道での土地区画整理事業・市街地再開発事業・防災公園等の面的整備事業等と連携し、地区公共施設等の整備、建築物の不燃化促進等を一体的に実施することにより、災害時の避難路・延焼遮断帯として機能する防災環境軸の整備を推進する。

○ **防災公園の緊急整備** **5,178百万円**

大規模地震等に対する防災、減災対策を推進し、安全・安心な都市環境の形成を緊急に図るため、地震災害時の避難地、防災拠点等となる都市公園について、平成20年度内に防災機能を発現する箇所の整備を重点的に推進する。

○ **緊急浸水対策** **14,188百万円**

都市機能が集積した地区における浸水被害の最小化のための緊急浸水対策（平成20年度までに整備完了予定）等を重点的に推進する。

※1 予算額は、国費である。

※2 このほか、街路事業において453百万円、特定地域振興対策において4,013百万円がある。

6. 事業の重点化・効率化

(1) 政策評価による事業の推進

所管事業に設定した成果目標（業績指標等）に基づき、政策評価等を的確に実施し、予算に反映する。

【主な業績指標】

① 都市域における水と緑の公的空間確保量

業績指標：12㎡/人（H14）→約8%増（H18）→13㎡/人（H19）

（12㎡/人を約1割増）

<指標の定義>

都市域における（港湾の区域を含む）自然的環境（樹林地、草地、水面等）を主たる構成要素とする空間であり、制度的に永続性が担保されている空間の確保量（面積）を都市域人口で除したものの。

② 汚水処理人口普及率

業績指標：76%（H14）→82%（H18）→86%（H19）

<指標の定義>

総人口に対して、下水道、農業集落排水施設、浄化槽等の汚水処理施設を利用できる人口の割合。

③ 都市再生誘発量

業績指標：3,878ha（H18）→9,200ha（H23）

<指標の定義>

我が国の都市構造を、豊かな都市生活や経済活動を実現できるものへと再構築し、健全で活力ある市街地の整備等を通じて都市再生が誘発された量。

④ 都市機能更新率（建築物更新関係）

業績指標：31.8%（H15）→34.4%（H18）→目標値 36%（H20）

<指標の定義>

特に一体的かつ総合的に再開発を促進すべき地区（都市再開発方針に位置付けられた、いわゆる2号地区及び2項地区等の区域）における宅地面積のうち4階建て以上の建築物の宅地面積の割合。

(2) 事業の重点化

① 下水道事業

国民の安全・安心の確保の観点から、激しい集中豪雨に対し、雨水の排除に加え、貯留・浸透も含めた下水道施設を整備するとともに、地下街への雨水流入防止等民間による被害軽減対策（自助）を組み合わせた総合的な浸水対策を推進する。また、地球温暖化防止及び循環型社会形成に資するため、下水汚泥等の資源・エネルギーの有効利用を推進する。

- ・資源・エネルギーの循環型社会の構築 国 費 496億円（1.5%増）
- ・下水道による都市浸水対策の推進 国 費 1,137億円（0.8%増）

② 都市公園事業

国民の安全と安心の確保の観点から、地震災害時の避難地、防災拠点等となる防災公園の整備を推進する。また、歴史・文化資産を保全・活用した都市公園等の整備について、地域活性化の観点から事業の重点的实施を図る。

- ・地震災害時の避難地、防災拠点等となる防災公園の整備 国 費 273億円（0.6%増）
- ・歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりを推進するための都市公園の整備 国 費 16億円（32.4%増）

③ 都市環境整備事業

現下の重要な課題である地域の活性化を更に推進するため、まちづくり交付金により、地域の担い手のニーズを反映した官民協働によるまちづくりや複数の市町村の連携によるまちづくり等を推進する。

また、大規模地震により被災したまちの早期復興及び地震に強いまちづくりを総合的に支援する。

さらに、省CO₂型の都市の実現に向けて都市環境の改善を図るため、地域冷暖房施設の整備に対して支援する。

- ・まちづくり交付金の拡充 国 費 2,510億円（3.3%増）
- ・都市防災総合推進事業の拡充 国 費 25億円（36.5%増）
- ・エコまちネットワーク整備事業の拡充 国 費 3億円（76.5%増）

④ 街路事業

都市圏の安全で円滑な交通を実現するため、踏切対策のスピードアップ、交通結節点改善、公共交通機関支援、都市高速道路支援を重点的に推進する。

- ・連続立体交差事業の推進 国 費 1,046億円（5.0%増）
- ・総合的な都市交通の戦略の推進 国 費 657億円（3.3%増）

(3) 効率性・透明性の向上

① 時間管理概念による事業の推進

1) 都市計画道路整備プログラムの策定

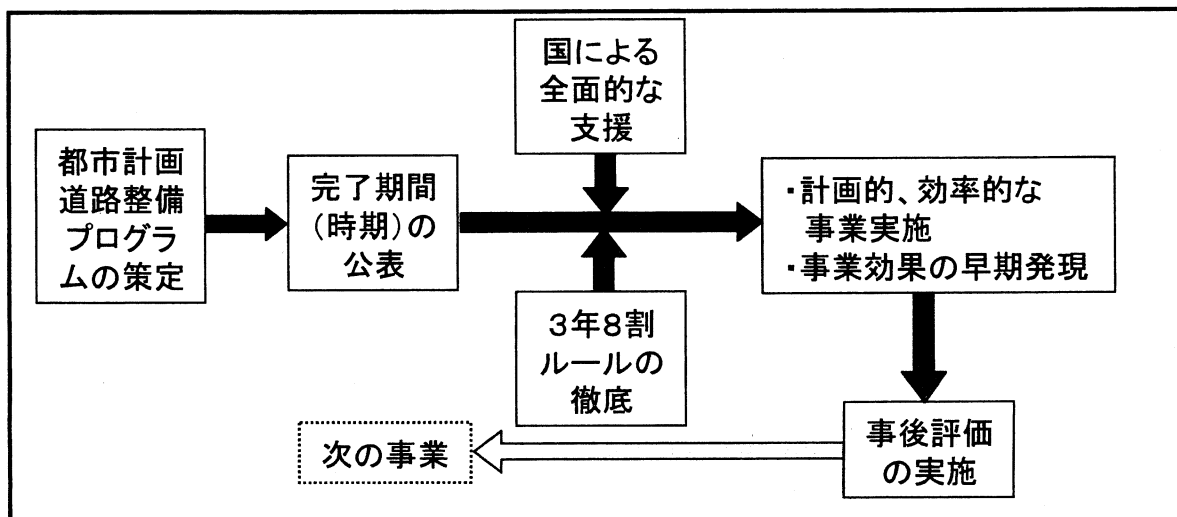
都市計画道路整備プログラムは、1) 事業化の必要性の熟考、整備時期の公表等による行政の透明性、公平性等の確保 2) 用地確保等の関連施策の円滑な実施による効率的・効果的な道路整備の実施等の観点から重要なものであり、平成19年4月現在で245市区町村において策定済み(うち64市区町村で公表済み)であるが、今後とも地方公共団体への普及促進に努める。

2) 「完了期間宣言路線」等の重点整備

民間投資誘発効果の高い都市計画道路の整備をより一層推進するため、地方公共団体において残りわずかな用地買収が事業進捗の隘路となっている路線等について、一定期間内(例えば3年以内)に完了させる路線として公表する取組を行っている。この公表路線(「完了期間宣言路線」)については、用地買収・整備を重点的に支援する。

3) 土地収用の活用

事業の進行管理の適正化の観点から、遅くとも用地取得率80%又は用地幅杭打設後3年のいずれか早い時期を経過した時点までに収用裁決申請等の手続を行うことにより、都市計画道路の早期完成を図る。また、土地収用制度の活用を視野に入れた事業認可期間の適切な設定等について、地方公共団体へ周知する。



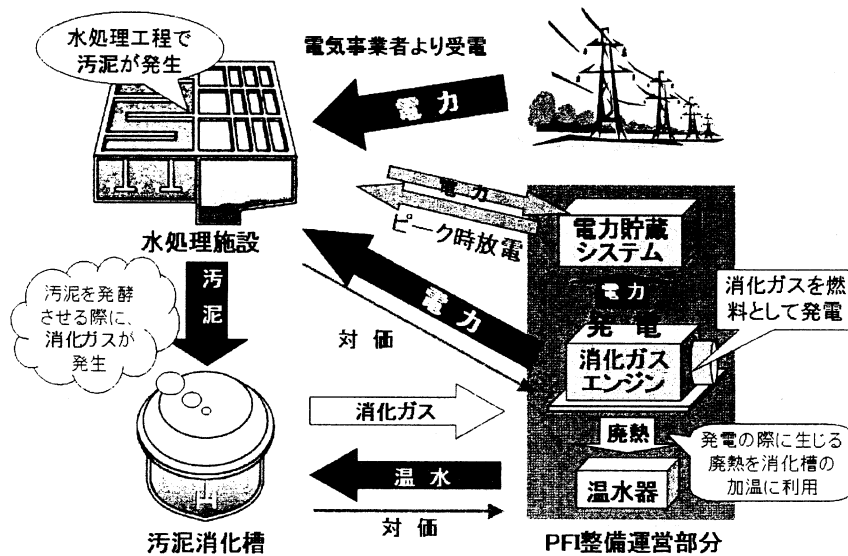
② P F I 事業の推進

1) 下水道事業

下水道事業においては、以下の4事業について実施方針の公表がなされ、このうち3事業についてP F Iによる事業化がなされている。今後とも、汚泥の有効利用等V F M (Value for Money) の出る可能性のある分野においてP F Iによる事業実施を推進する。

- ◇ 東京都下水道局森ヶ崎水再生センター常用発電事業（事業中）
事業主体：東京都区部
場 所：東京都森ヶ崎水再生センター
- ◇ 横浜市環境創造局改良土プラント増設・運営事業（事業中）
事業主体：横浜市
場 所：横浜市北部第二再生センター
- ◇ 横浜市環境創造局北部汚泥資源化センター発電設備整備事業
(平成19年9月実施方針公表)
事業主体：横浜市
場 所：横浜市北部汚泥資源化センター
- ◇ 大阪市津守下水処理場消化ガス発電設備整備事業（事業中）
事業主体：大阪市
場 所：大阪市津守下水処理場

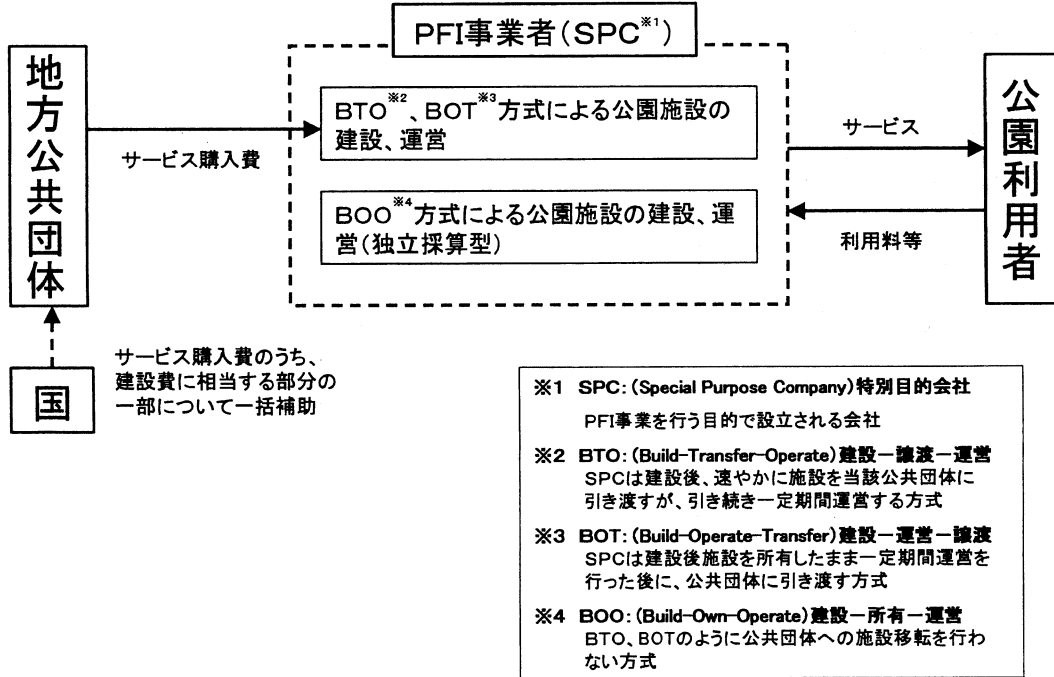
<大阪市津守下水処理場消化ガス発電施設整備事業 事業スキーム>



2) 都市公園事業

民間の資金、経営能力及び技術能力を活用した都市公園の整備等を促進する。

【PFI事業における国庫補助事業活用スキームの例】

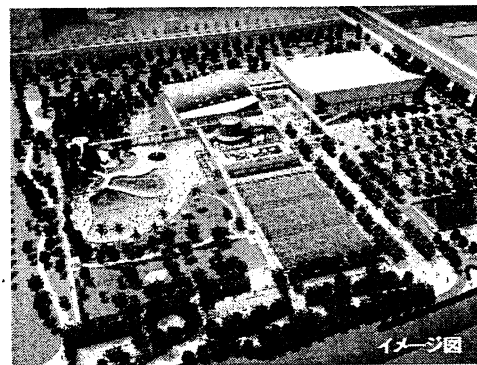


【PFI事業実施箇所一覧】

公園名 【内は公園管理者】	事業名	整備内容(下線部は補助事業により実施) ()内は補助事業期間	PFI事業期間
湘南海岸公園 【神奈川県】	海洋総合文化ゾーン体験学習施設等特定事業	BTO: 体験学習施設(H14~15) BOO: 水族館	H13~46
長井海の手公園 【神奈川県横須賀市】	(仮称)長井海の手公園整備等事業	BTO: 園地、管理事務所、休憩所等(H15~16) BOT: 駐車場、レストラン、売店ほか	H15~27
尼崎の森中央緑地 【兵庫県】	尼崎の森中央緑地スポーツ健康増進施設整備事業	BTO: プール、屋外・屋内健康増進施設(H15~18)	H15~35
噴火湾パノラマパーク 【北海道】	道立噴火湾パノラマパークビジターセンター等整備運営事業	BTO: ビジターセンター等(H16~17) BOT: オートキャンプ場等	H16~43

<尼崎の森中央緑地スポーツ健康増進施設概要>

【事業主体】: 兵庫県 【位置】: 尼崎市
 【事業面積】: 約3.5ha(全体面積18.9ha)
 【契約期間】: 20年
 【PFI事業概要】:
 プール施設及びフィットネス施設、グラウンドゴルフ、フットサルコート、森の子ども広場、森のギャラリー等からなる健康増進施設(民間提案施設)に関する調査・設計業務、建設業務、維持管理業務、運営業務
 【PFI事業期間】: H15・12月—H35・3月末



7. 平成20年度都市・地域整備局関係予算政策目標別総括表

【一般公共事業費】

(単位:百万円(国費))

政 策 目 標	平成20年度 (A)	前 年 度 (B)	倍 率 (A/B)
暮らし・環境	558,612	596,784	0.94
政策目標2 良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現	558,612	596,784	0.94
○良好で緑豊かな都市空間の形成、歴史的風土の再生等を推進する	62,177	67,397	0.92
・歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりの推進	1,411	913	1.55
・都市公園事業の推進 等	60,766	66,484	0.91
○良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワーク形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を推進する	496,435	529,387	0.94
・緑地環境整備総合支援事業の推進	5,314	5,369	0.99
・都市水環境整備事業の推進	44,164	44,626	0.99
・民間活用型地球温暖化対策下水道事業制度の創設	100	0	皆 増
・下水道事業の推進 等	446,857	479,392	0.93
安 全	163,331	169,183	0.97
政策目標4 水害等災害による被害の軽減	163,331	169,183	0.97
○住宅・市街地の防災性を向上する	163,331	169,183	0.97
・都市公園防災事業の推進	25,874	25,691	1.01
・雨に強い都市づくり支援事業の創設	2,022	0	皆 増
・下水道長寿命化支援制度の創設	5,000	0	皆 増
・下水道防災事業の推進	127,635	134,360	0.95
・都市防災総合推進事業の推進	2,500	1,832	1.36
・独立行政法人都市再生機構出資金(防災公園街区型) 等	300	7,300	0.04
活 力	292,007	285,426	1.02
政策目標7 都市再生・地域再生等の推進	289,657	283,026	1.02
○都市再生・地域再生を推進する	289,657	283,026	1.02
・まちづくり交付金の推進	251,000	243,000	1.03
・まち再生総合支援事業の推進	5,679	5,737	0.99
・暮らし・にぎわい再生事業の推進	6,000	5,400	1.11
・都市再生推進事業の推進 等	26,978	28,889	0.93
政策目標8 都市・地域交通等の快適性、利便性の向上	2,350	2,400	0.98
○都市・地域における総合交通戦略を推進する	2,350	2,400	0.98
・都市交通システム整備事業の推進	2,350	2,400	0.98
横断的な政策課題	32,299	33,747	0.96
政策目標10 国土の総合的な利用、整備及び保全、国土に関する情報の整備	32,299	33,747	0.96
○離島等の振興を図る	3,173	3,985	0.80
・都市公園事業の推進	25	35	0.71
・下水道事業の推進	3,148	3,950	0.80
○北海道総合開発を推進する	29,126	29,762	0.98
・歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりの推進	170	275	0.62
・都市公園事業の推進	6,556	6,624	0.99
・下水道事業の推進	22,400	22,863	0.98
そ の 他 (沖 縄 分)	20,704	21,424	0.97
・歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりの推進	25	25	1.00
・都市公園事業の推進	9,963	10,302	0.97
・下水道事業等の推進	10,716	11,097	0.97
合 計	1,066,953	1,106,564	0.96

(注)平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、51,459百万円を含む。

II. 事業別予算概要

1. 下水道事業の推進

(1) 基本方針

「平成20年度予算編成の基本方針（平成19年12月4日閣議決定）」等を踏まえ、国民の安全・安心の確保、地球温暖化対策、地域の活性化等を重視し、「安全」、「環境」、「地域活性化」に資する下水道事業として以下の施策を推進する。

① 安全

近年の集中豪雨の頻発等を踏まえ、雨水貯留浸透を取り入れた下水道によるハード対策と、降雨情報の提供等のソフト対策、住民自らの取組（自助）を含めた総合的な浸水対策を推進する。また、地震時においても下水道が最低限有すべき機能を確保するため、施設の耐震化等を進める。さらに、今後、老朽化施設が増加していくことも踏まえ、事故の未然防止及びライフサイクルコストの最小化の観点から、長寿命化を含めた計画的な改築を推進する。

② 環境

地球温暖化防止及び循環型社会形成の観点から、民間ノウハウも活用しつつ、下水汚泥等の有する資源・エネルギーの有効利用を推進する。また、閉鎖性水域や水道水源水域等の水質保全のため、下水道整備を重点的に行うとともに、窒素・リン等の除去のための高度処理を推進する。さらに、雨天時における未処理汚水の放流による水質汚染リスクを軽減するため、合流式下水道の改善を推進する。

③ 地域活性化

生活環境の改善を図るとともに、定住促進、観光振興、産業振興など地域の活性化を図るため、未普及地域における下水道整備を推進する。未普及地域のうち、人口が集中した地区等において重点的な整備を行う一方、その他の地域においては、他の汚水処理施設との連携強化や地域の実状に応じた低コストの整備手法の導入により、効率的な整備を推進する。

関連指標	予算額（単位：億円）		主要施策
	事業費	国費	
下水道処理人口普及率	(0.93) 3,575	(0.93) 1,794	○市街化区域や水質保全上重要な地域における未普及解消の推進
床上浸水を緊急に解消すべき戸数	(1.01)	(1.01)	○下水道による都市浸水対策の推進
下水道による都市浸水対策達成率	2,279	1,137	
環境基準達成のための高度処理人口普及率	(0.96) 3,142	(0.95) 1,620	○高度処理等による公共用水域の水質保全の推進
合流式下水道改善率	(0.96) 1,271	(0.96) 655	○合流式下水道の改善
下水汚泥リサイクル率	(1.02) 915	(1.02) 496	○資源・エネルギーの循環型社会の構築

(注) 上段()書きは、対前年度倍率である。

(2) 下水道事業費予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
下水道事業費補助	921,727	476,762	966,513	510,792	0.95	0.93
下水道防災事業費補助	280,160	139,923	278,509	139,153	1.01	1.01
下水道調査費等	755	1,184	779	1,717	0.97	0.69
小 計	1,202,642	617,869	1,245,801	651,662	0.97	0.95
都市水環境整備事業費補助等	88,203	44,173	88,251	44,626	1.00	0.99
合 計	1,290,845	662,042	1,334,052	696,288	0.97	0.95

(注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 53,440百万円、国費 27,981百万円を含む。

2. 本表のほか、内閣府に一括計上されている地域再生基盤強化交付金（汚水処理施設整備交付金）20年度 87,478百万円（前年度 85,800百万円：1.02倍）がある。

(3) 主要事項

① 雨に強い都市づくり支援事業の創設

住民自らの災害対応やこれを支援するソフト対策を組み合わせた効率的な浸水対策を推進し、雨に強い都市づくりを実現するため、関係主体が一体となった計画策定に要する経費を補助対象とするとともに、民間による被害軽減対策（自助）への支援につき、補助対象を拡充する。（p. 20参照）

② 下水道長寿命化支援制度の創設

事故の未然防止及びライフサイクルコストの最小化を目的とした長寿命化計画の策定に要する経費を補助対象とし、長寿命化対策を含めた計画的な改築を支援する。

③ 民間活用型地球温暖化対策下水道事業制度の創設

下水道管理者が民間企業と一体となって行う下水汚泥等の循環利用に関する計画の策定に要する経費を補助対象とする。また、同計画に基づきPFI手法により民間事業者が資源化を前提とした下水汚泥等の処理施設を建設する際に、地方公共団体への補助を通じてこれを支援するとともに、下水汚泥等の処理施設と関連して整備する貯蔵施設等の建設費に対し、1,000-CO₂/年以上のCO₂削減効果が見込まれる場合に補助対象とする。（p. 23参照）

④ 下水道水環境保全効果向上支援制度の創設

下水道による水質保全効果を向上させるため、地方公共団体が、

- ・生活保護の受給者に対しトイレの水洗化及び排水設備の設置を支援する場合
- ・合流区域における分流化等に伴う排水設備の改造等を行う者に対し支援する場合

に、国が助成額の一部を補助する。

⑤ 下水道事業における市町村合併支援措置等補助対象範囲の運用改善

- ・公共下水道の管きよの補助対象範囲を定める際の市町村区分の適用に関する特例措置を以下のように延伸する。

平成13年3月9日以降に市町村の合併をした市町村については、平成27年度までを期限として、市町村の合併した日から起算して10年を経過する日の属する年度の末日までの間は、当該市町村の合併前の市町村の区分を適用できるものとする。

- ・財政力の弱い中小市町村における下水道整備を促進するため、公共下水道の管きよの補助対象範囲の見直しを行う。（p. 17参照）

〔参 考〕 下水道事業の効果

○ 浸水対策の推進

目 的：降雨に対して安全な都市を実現

整備状況：床上浸水を緊急に解消すべき戸数 6.0万戸(H18末)



平成18年8月大阪府豊中市



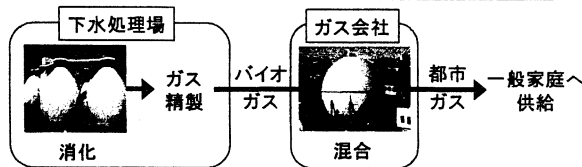
平成19年7月長崎県佐世保市

○ 下水汚泥等の資源・エネルギー化

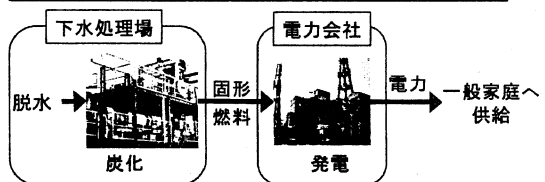
目 的：地球温暖化対策、資源・エネルギーの循環型社会の実現

整備状況：下水汚泥エネルギー利用率：約1割(H17末)

ガス会社と連携し、精製したバイオガスを都市ガスの原料として供給



電力会社と連携し、炭化した汚泥燃料を石炭代替燃料として火力発電所で発電



全国の下水汚泥(223万トン/年)の全量を燃料として発電に利用した場合、200万トン-CO₂分の削減効果

○ 下水道の普及促進

目 的：衛生的で快適な生活を早期に実現

整備状況：下水道処理人口普及率：71%(H18末)

都市規模別で見た下水道の整備状況

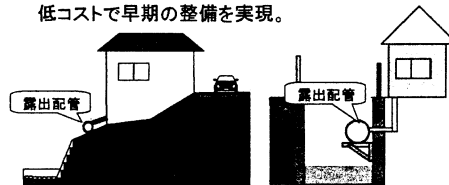
人口規模 (世帯数)	人口規模					下水道整備平均 70.5%
	100万人以上	50~100万人	30~50万人	10~30万人	5~10万人	
普及率	98.4%	80.6%	77.6%	69.1%	56.1%	41.2%
人口(万人)	2,734	1,033	1,738	3,046	1,955	2,199
世帯人口(万人)	2,890	833	1,349	2,108	1,078	905
標準市数	12	15	45	189	281	1,263
実施市数	12	15	45	189	278	952

都市規模別下水道処理人口普及率

-社会実験による新たな整備手法の導入検討事例-

<民地や既存の水路空間を活用した露出配管>

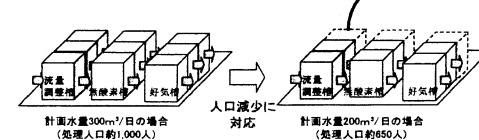
- 埋設に係る費用が不要となることにより、低コストで早期の整備を実現。



<プレハブ式膜分離活性汚泥法の採用>

※工場生産した規格ユニットを必要規模に応じて配置するもの。

- 施設の転用などにより、人口減少下においても手戻りのない整備を行うことが可能。



2. 都市公園等事業の推進

(1) 基本方針

良好な景観形成等を目的として整備された景観緑三法の的確な推進、都市公園事業や緑地保全事業等の一体的実施、民間事業者が行う緑化等との協働により、総合的・効率的・効果的に緑とオープンスペースの確保を図るとともに、歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりを推進するため、都市公園の整備、緑地の保全及び都市緑化について、以下の取組を重点的に推進する。

① 安全・安心な都市の形成への対応

地震災害時の避難地・避難路、復旧・救援活動拠点、延焼防止帯等となる都市公園等の緊急かつ計画的な整備

② 地球環境問題等への対応

地球温暖化の防止、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性の保全、自然再生等に資する緑とオープンスペースの確保

③ 豊かな地域づくりへの対応

地域の歴史的・文化的・自然的資源と一体となって、地域の活性化、地域間の交流・連携等に資する都市公園等の整備

④ 参画社会への対応

地域住民やボランティア、民間事業者等の多様な主体の参画・協働による緑とオープンスペースの確保と活用

関連指標	予算額(単位:億円)		主要施策
	事業費	国費	
都市域における水と緑の公的空間確保量	(0.92) 1,503	(0.93) 828	<ul style="list-style-type: none"> ○国営公園の計画的な整備及び適正な維持管理の推進 ○美しい国土の形成、地域の活性化に資する都市公園等の整備 ○都市の良好な緑地の保全、緑化の推進 ○水と緑のネットワークの形成等
一定水準の防災機能を備えるオープンスペースが一箇所以上確保された大都市の割合	(1.01) 670	(1.01) 273	<ul style="list-style-type: none"> ○避難地、防災拠点等となる都市公園等の整備

(注) 上段()書きは、対前年度倍率である。

(2) 都市公園等事業費予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
国 営 公 園	34,662	34,662	36,099	36,099	0.96	0.96
維持管理	11,532	11,532	11,362	11,362	1.01	1.01
整備	23,130	23,130	24,737	24,737	0.94	0.94
都 市 公 園	92,241	37,721	102,568	41,689	0.90	0.90
事業費補助	9,827	4,711	10,401	4,986	0.94	0.94
古都及緑地保全	67,035	27,250	66,109	27,085	1.01	1.01
事業費補助	440	446	454	490	0.97	0.91
都市公園調査費等	204,205	104,790	215,631	110,349	0.95	0.95
小 計	13,128	5,314	13,263	5,369	0.99	0.99
緑地環境整備総合 支援事業費補助	217,333	110,104	228,894	115,718	0.95	0.95
合 計						

(注) 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 12,494百万円、国費 5,478百万円を含む。

(3) 主要事項

① 国営公園の整備及び適正な維持管理の推進

平成20年度より「国営飛鳥・平城宮跡歴史公園（仮称）」平城宮跡区域（仮称）の整備に着手するとともに、全国17カ所の国営公園において計画的な整備を推進する。また、草原エリアを追加開園する国営みちのく杜の湖畔公園等、既開園16公園において適正な維持管理を行う。

(p. 10参照)

② 都市公園等の整備推進

1) 歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりを推進するための都市公園の整備

地域の歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりを推進するため、地域の核となる貴重な歴史的資産の保全・活用を資する都市公園の整備を推進する。(p. 9参照)

また、バリアフリー新法に基づく「移動等円滑化の促進に関する基本方針」を踏まえ、都市公園のバリアフリー化を推進する。

2) 防災公園の緊急整備

安全・安心な都市環境の形成を緊急に図るため、地震災害時の防災拠点、避難地、延焼防止帯等となる都市公園等の整備を推進する。

③ 古都保存及び緑地保全の推進

古都保存事業及び緑地保全事業により、歴史的風土の保存、緑地の保全を図るため、必要な土地の買入れ及び保全施設等の整備を推進する。

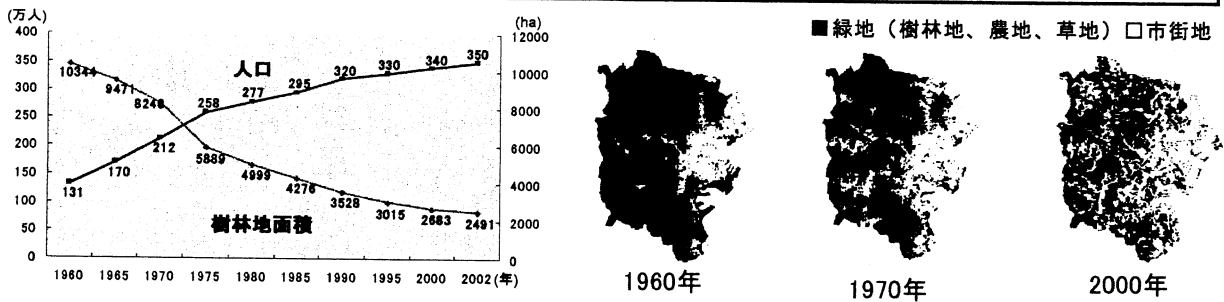
④ 緑地環境整備総合支援事業の推進

都市公園の整備、緑地保全事業及び民有緑地の公開に必要な施設整備などを総合的に支援することで、都市域における水と緑のネットワークの形成、CO₂吸収源対策に資する都市緑化等を推進する。(p. 22参照)

[参 考]

○ 横浜市における緑地と市街地の推移

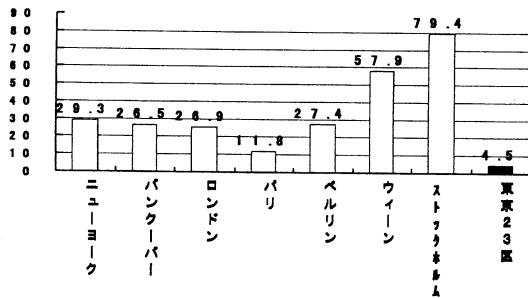
横浜市ではこの40年間、人口は3倍に増加、樹林地は1/4に減少 (横浜市緑の基本計画)



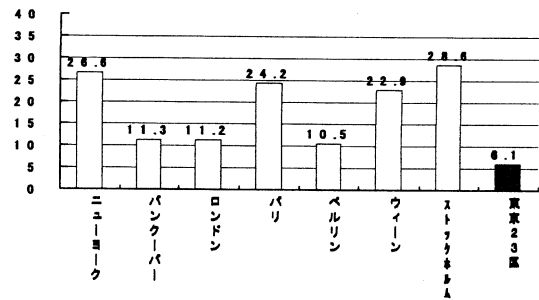
○ ゆとりとうるおいを実感できる公園ストックの確保

現況：1人当たり都市公園等面積 約9.3㎡ (H19.3.31現在)

各国の大都市における一人当たり公園面積 (㎡/人)



各国の大都市における公園面積率 (%)



※東京23区は、国民公園等都市公園以外の緑とオープンスペースを含む面積 (出典：東京都公園調査, H18年4月1日)
 ※公園面積率は、都市的區域面積に対する公園緑地の面積の割合

○ 緑地の保全、緑化推進のための法制度の適用 (H19.3.31現在)

地区名	指定地区数	面積 (ha)
歴史的風土特別保存地区	60	6,428.4
明日香村における第1種及び第2種歴史的風土保存地区	—	2,404.0
近郊緑地特別保全地区	26	3,455.5
特別緑地保全地区	355	2,034.4
市民緑地	129	71.5
認定緑化施設	19	5.1

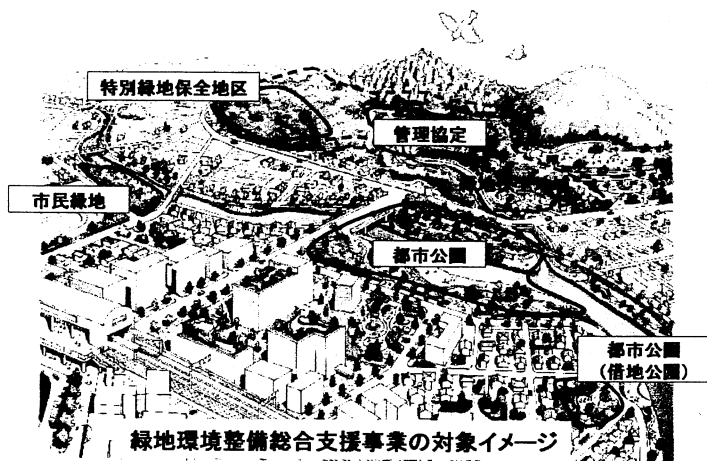
○ 効率的・効果的な緑とオープンスペースの確保

<緑地環境整備総合支援事業>

多様な手法の活用による緑とオープンスペースの確保を総合的に支援し、都市域における水と緑のネットワークの形成を推進。

多様な手法の事例

- ・都市公園事業
- ・古都及び緑地保全事業
- ・市民緑地等整備事業 (借地公園を含む)



3. 街路事業の推進

(1) 基本方針

安全・安心な社会の確立、人口減少・超高齢社会や地球環境問題への対応、集約型都市構造の実現、ユニバーサルデザインの実現、中心市街地等における都市の活力の再生・地域の活性化等、我が国の都市が抱える諸課題に対応するため、事業スピードを重視しつつ、重点的かつ効率的な事業展開を図る。

具体的には、都市・地域の魅力ある将来像の実現と安全で円滑な交通の確保のための総合的な都市交通の戦略に基づく施策の推進、踏切対策のスピードアップ、駐車対策の推進、安全で安心な市街地の形成に資する街路整備等を行う。

(2) 街路事業費予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
街 路	567,857	310,605	612,158	336,839	0.93	0.92
区 画 整 理	163,123	90,969	180,244	100,320	0.91	0.91
再 開 発	32,250	17,938	34,832	19,049	0.93	0.94
街 路 交 通 調 査	2,498	1,136	2,546	1,140	0.98	1.00
合 計	765,728	420,648	829,780	457,348	0.92	0.92

(注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 876百万円、国費 453百万円を含む。

2. 各区分の計数には、地方道路整備臨時交付金分(見込値)を含む。

3. 本表のほか、結節点環境改善、連続立体交差事業資金貸付金がある。

(3) 主要事項

① 総合的な都市交通の戦略に基づく施策の推進

1) 都市・地域総合交通戦略の推進

都市・地域の魅力ある将来像の実現と安全で円滑な交通の確保のため、都市交通施策の総合的な取組を促進する。

このため、関係者で構成される協議会等による都市・地域総合交通戦略の策定や、戦略に基づくLRTの整備、交通結節点の改善、駐車場整備、徒歩・自転車による移動環境の整備等の取組を総合的に支援する。

2) 省CO₂型の都市づくり等に資する都市交通システムの整備

省CO₂型の都市づくりや歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりにおいては、交通体系のあり方を十分考慮していくことが必要である。そこで、安全で円滑な交通を確保し、魅力ある都市・地域の将来像を実現す

るため、徒歩、自転車、自動車、公共交通の適正分担を目的とした都市の交通システムの整備を図り、自動車から公共交通への利用の転換や、安全・快適な歩行者等の移動空間が確保された交通体系の構築を推進する。

② 踏切対策のスピードアップ

「開かずの踏切」等の対策を早期に実施するため、連続立体交差事業等による踏切の除却対策と歩道拡幅等による踏切交通の安全対策を緊急かつ重点的に推進する。(p. 16参照)

③ 駐車対策の推進

改正道路交通法の施行に伴い、高まる駐車需要に対応するため駐車場整備を一層推進する。特に短時間駐車を行う貨物車に対しては、関係者と連携した荷捌きスペースの整備を推進する。また、整備が遅れている自動二輪車の駐車対策を推進する。さらに駅前広場等の交通結節点において、放置自転車を排除するとともに乗り継ぎ利便性を高めるため、交通結節点改善事業のうち、道路施設の整備と一体的に道路敷地外の整備を行う結節点環境改善事業による自転車駐車場の整備に対して支援を拡充する。

④ 安全で安心な市街地の形成に資する街路整備

重点密集市街地(全国約8,000ha)内の「防災環境軸」の核となる都市計画道路で、防災上緊急に整備する路線として①完了期間及び②防災機能概成期間(5年以内)を宣言した路線(「完了期間宣言防災路線」)について、宣言どおり達成するように、地方公共団体は徹底した進捗管理を行い、国は予算の重点配分により重点的に支援する。また、地震防災対策の強化や早期実施、及び被災地における早期復興を進めるため補助制度を拡充する。

(4) 街路事業の進め方の改革

より効果的、効率的かつ透明性の高い行政運営への転換を図るため、時間管理概念の徹底と整備効果を踏まえた都市計画道路整備を推進する以下の取組を支援する。

- ・地域の課題に対する街路事業の定量的な成果目標の設定
- ・都市計画道路整備プログラムの策定・公表
- ・完了期間宣言の実施(一定期間内に完了させる路線として公表する取組)
- ・土地収用の活用等を通じた適切な事業進行管理
- ・事業完了後の効果把握・公表

(参 考)

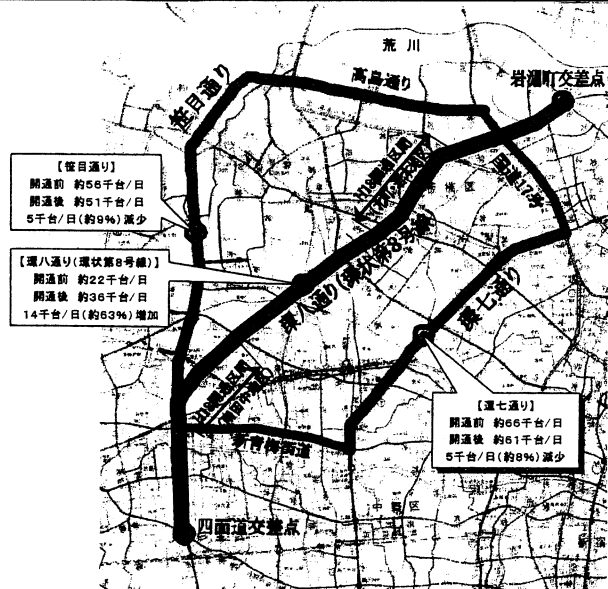
- 街路の整備状況
 - ・都市計画幹線道路の改良率は55.6%（平成18年3月現在）
- 街路事業の整備効果
 - ・都市計画道路の整備による渋滞緩和

都市部において交通渋滞が緩和され経済社会活動が円滑化。物流機能強化、中心市街地活性化等の面で効果。

(例) 環状第8号線の整備効果
 * 東京都心部を囲む環状道路の一部（平成18年5月供用）

◇ 走行時間の短縮
 四面道交差点～岩淵町交差点
 （延長15.3km）

	開通前	開通後
笹目通り経由	約73分	約40分
環七通り経由	約77分	約44分
環八通り経由	—	約30分



・連続立体交差化による道路交通円滑化効果

踏切部における交通渋滞や地域分断、踏切事故の危険性を一気に解消するとともに、踏切遮断によるCO₂排出量の削減など環境面の効果も大きい。

(例) JR 阪和線（美章園駅～杉本駅付近）の整備効果

JR 阪和線の約4.9kmを高架化（平成18年5月高架切替）し、12箇所の踏切を一挙に除却。本事業地区では、開かずの踏切が11箇所連続し、踏切交通遮断量が約20万台時/日に及ぶ踏切が3箇所あり、以下の整備効果が発現。

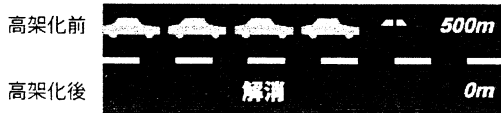
< 高架切替前 >



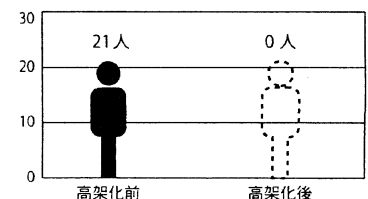
< 高架切替後 >



長居南一踏切の最大渋滞長



踏切事故死者数（平成6～平成15年度合計）



4. 土地区画整理事業の推進

(1) 基本方針

経済活力の源泉である都市について、その魅力と国際競争力を高め、その再生を実現することが求められている。また、地域経済の活性化と地域雇用の創造を図り、地域の活性化を実現することが求められている。このため、都市再生・地域再生に資する土地区画整理事業について、民間による事業展開等を図りつつ、集約型都市構造の実現に向けて、拠点市街地の形成、及び既成市街地の再生に資する事業を推進する。

① 既成市街地の再生

我が国の都市は、拡散型の都市構造となってきたが、人口増加も頭打ちとなる中で、コンパクトな市街地に改編して集約型の都市構造を実現することが必要となっている。

このため、土地区画整理事業については、既成市街地の再生に重点を置いて推進することとしており、特に、集約型都市構造の拠点となるべき駅周辺や中心市街地等の拠点市街地の形成を図る事業、20世紀の負の遺産の代表である密集市街地の防災性の向上を図る事業を推進する。

② 民間による事業展開

既成市街地の事業について、民間のノウハウ等をより一層活用するとともに、民間の動向や意向に対応して事業を推進する。

③ 停滞している組合事業の再生

近年の宅地需要や地価の低迷に伴い、経営困難になっている組合も見られることから、事業の見直しの早期実施を促進する。

④ 良好な都市環境の形成

歴史的資産を活かした市街地整備、電線類の地中化等により、魅力的な街並みの形成を推進する。

また、地球環境問題に対応して、エネルギーの効率的な面的利用等を推進する。

関 連 指 標	予算額(単位:億円)		主 要 施 策
	事業費	国 費	
都市再生誘発量	(0.98) 81	(0.98) 36	既成市街地の再生・再構築に資する 都市再生区画整理事業

(注) 上段()書きは、対前年度倍率である。

(2) 土地区画整理事業等予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
(一般会計)						
都市再生推進事業						
都市再生区画整理	8,111	3,631	8,291	3,691	0.98	0.98
都市開発事業調査	23	23	24	24	0.96	0.96
小 計	8,134	3,654	8,315	3,715	0.98	0.98
(社会資本整備事業特別会計：道路整備勘定)						
土地区画整理事業	163,123	90,969	180,244	100,320	0.91	0.91
(社会資本整備事業特別会計：業務勘定)						
土地区画整理事業資金融資	9,566	0	10,682	0	0.90	—
合 計	180,823	94,623	199,241	104,035	0.91	0.91

- (注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 242百万円、国費 121百万円を含む。
 2. 社会資本整備事業特別会計(道路整備勘定)には、地方道路整備臨時交付金分(見込値)を含む。
 3. 本表のほか、土地区画整理事業調査(街路交通調査(事業費 2,498百万円(前年度 2,546百万円)、国費 1,136百万円(前年度 1,140百万円))の内数)がある。

(3) 主要事項

① 集約型都市構造への転換・既成市街地の再整備の推進のための拡充 (都市再生区画整理事業)

重点地区の対象に都市再生緊急整備地域や都市計画マスタープラン等において位置付けられた地域の拠点等を追加するとともに、既成市街地における事業への支援の重点化等を行う。(p. 14参照)

② 歴史・文化資産を保全・活用したまちづくりの推進のための拡充 (都市再生区画整理事業)

- 1) 「歴史的風致維持向上計画(仮称)」に基づく事業地区を重点地区に追加する。
- 2) 歴史的まちなみ形成に資する建築物等の敷地上の従前建築物等の移転補償費を補助限度額の積算対象に追加する。(p. 9参照)

③ 多様な主体による市街地整備事業の初動期活動の推進のための拡充 (都市再開発支援事業)

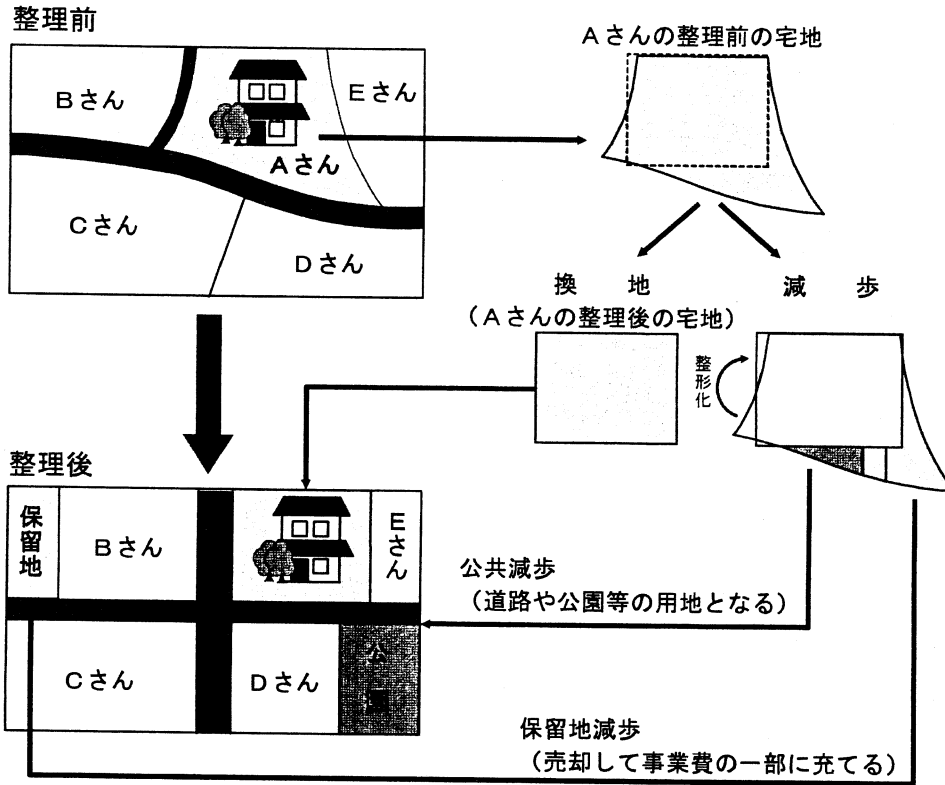
事業主体に土地区画整理事業等の関係主体を追加する。

④ 地震に強い都市づくりの推進のための拡充(都市再生区画整理事業)

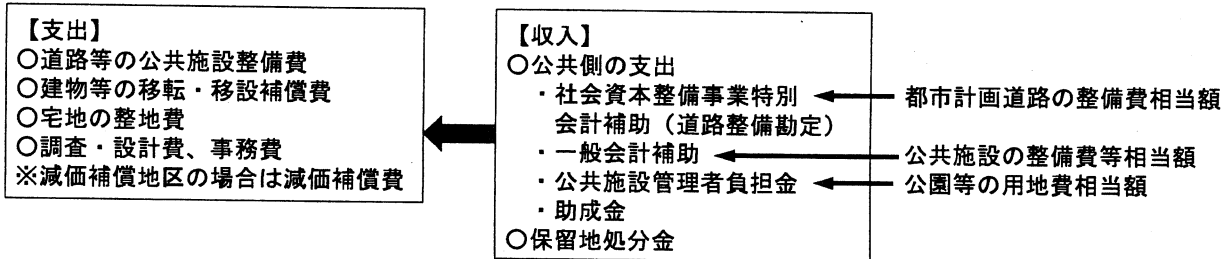
都市再生区画整理事業において、「地震に強い都市づくり推進5箇年計画」に位置付けられた事業の防災関連施設の整備費を補助限度額の積算対象に追加する。(p. 19参照)

(参考)

○ 土地区画整理事業の仕組み



資金構成

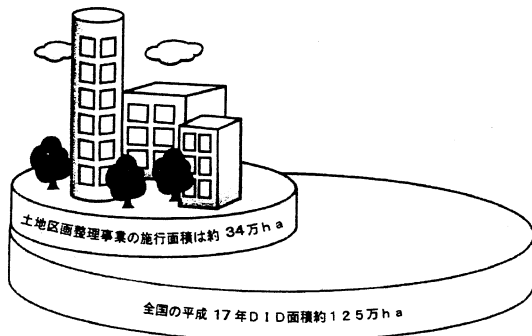


地権者は減歩により都市計画道路や公園等の用地を負担します。一方で国庫補助により投入される都市計画道路等の用地費に相当する資金は、宅地の整地費等に充当され、地権者に還元されます。

○ 土地区画整理事業の実績 (平成19年3月31日現在)

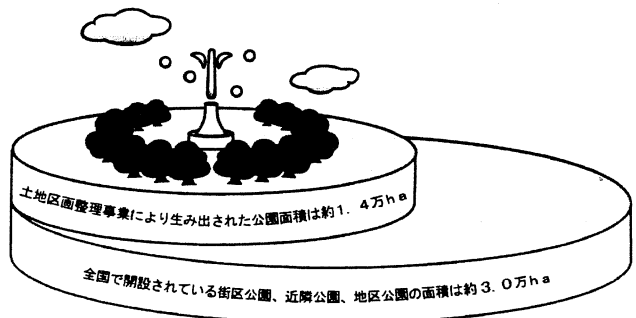
(1) 着工市街地面積

土地区画整理事業の施行面積は、全国で約34万ha。これは、東京23区面積の約6倍、全国DID面積の約3割に相当する。



(2) 整備公園面積

土地区画整理事業により生み出された公園面積は約1.4万ha。これは、山手線内の面積の約2倍、全国で開設されている街区公園、近隣公園、地区公園の約1/2に相当する。



5. 市街地再開発事業等の推進

(1) 基本方針

我が国経済の活力の源泉である都市について、良好な都市空間の創造、災害リスク軽減のための取組等により都市の再生を図るとともに、民間による都市への投資を誘発し、都市の競争力や成長力を一層高めることが求められている。

また、地方都市の中心市街地等においては、賑わいをもたらす都市機能の導入などの取組を支援することにより、地域の活性化を推進する必要がある。

このため、市街地再開発事業等においては、民間活力を最大限活用しつつ、特に以下の点に重点をおいて強力に事業を推進する。

- 地域の活性化・都市再生
- 防災上危険な密集市街地の解消
- 都市構造の再編に資する魅力ある都市拠点の形成
- 街なか居住の推進のための住宅市街地の総合的な整備

関 連 指 標	予算額(単位:億円)		主 要 施 策
	事業費	国 費	
都市機能更新率(建物更新関係)	(0.95) 1,039	(0.95) 198	民間活力による都市機能の高度化に資する再開発等の推進

(注) 上段()書きは、対前年度倍率である。

(2) 市街地再開発事業等予算額

(単位:百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
市街地再開発事業 一 般 会 計	87,119	13,767	94,527	15,381	0.92	0.90
社会資本整備事業特別会計(道路整備勘定)	32,250	17,938	34,832	19,049	0.93	0.94
暮らし・にぎわい再生事業	16,799	6,000	15,134	5,400	1.11	1.11
社会資本整備事業特別会計(業務勘定)						
市街地再開発事業等資金融資	3,802	0	2,766	0	1.37	—
合 計	139,970	37,705	147,259	39,830	0.95	0.95

(注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 17,133百万円、国費 6,167百万円を含む。

2. 一般会計の市街地再開発事業には、市街地再開発事業、先導型再開発緊急促進事業の合計額を計上。

3. 社会資本整備事業特別会計(道路整備勘定)の市街地再開発事業には、地方道路整備臨時交付金分(見込値)を含む。

4. 本表のほか、市街地再開発事業等調査(街路交通調査(事業費2,498百万円(前年度2,546百万円)、国費1,136百万円(前年度1,140百万円))の内数)がある。

(3) 主要事項

① 市街地再開発事業等による地震に強い都市づくりの推進

市町村が策定する「地震に強い都市づくり推進5箇年計画」に位置付けられた市街地再開発事業等について、災害時に活用可能な集会所等の施設整備を補助対象に追加する。(p. 19参照)

② 都市再開発支援事業の事業主体の追加

都市再開発支援事業の事業主体に市街地再開発事業に加えて土地区画整理事業及び防災街区整備事業の関係主体を追加する。

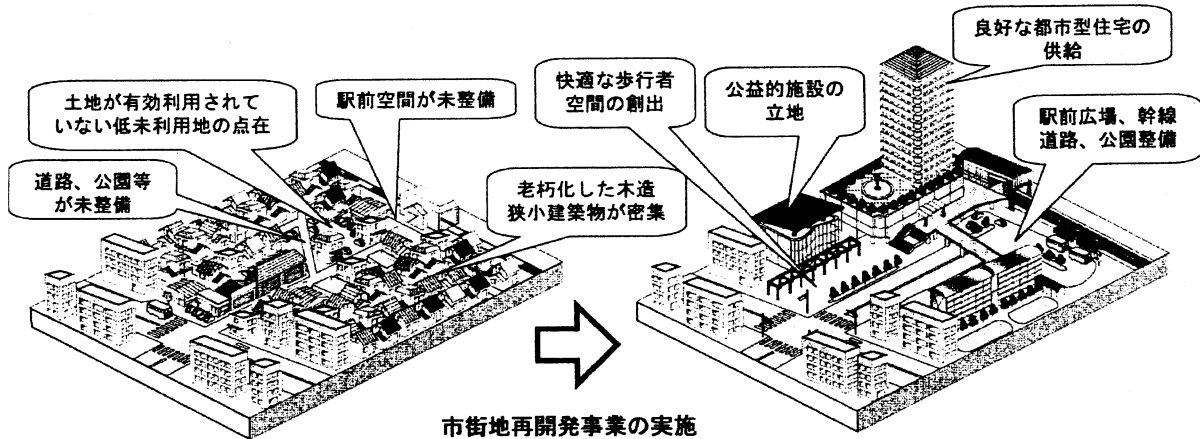
③ 暮らし・にぎわい再生事業による多様な中心市街地活性化の推進

中心市街地の活性化を地域の実情に応じてより効果的に推進するため、地域固有の特色あるまちなみ等を活かした整備に係る補助要件の緩和、市街地再開発事業等の採択要件を満たす場合の補助対象施設の追加等を行う。(p. 12参照)

〔参 考〕

○ 市街地再開発事業の仕組み

- ・敷地を共同化し、高度利用することにより駅前広場等の公共施設用地を生み出す。
- ・従前権利者の権利は原則として等価で再開発ビルの床に置き換えられる(権利床)。
- ・高度利用で新たに生み出された床(保留床)を処分し、事業費に充てる。



市街地再開発事業の実施
 施行地区の土地・建物の権利関係を調整して
 新しくできる再開発ビルの床の権利に変換

○ 市街地再開発事業の必要性

1. 特に一体的かつ総合的に市街地の再開発を促進すべき地区(平成19年3月末現在)

	箇所数	面積 (ha)
計画的な再開発が必要な市街地	301	160,335
特に一体的かつ総合的に市街地の再開発を促進すべき相当規模の地区	893	30,428

※ 都市再開発法第2条の3に基づく都市再開発方針に定められたものを集計

2. 防災上危険な密集市街地の解消

地 域	特に大火の可能性の高い危険な密集市街地
全 国	約8,000 ha
うち東京圏	約2,000 ha
うち大阪圏	約2,000 ha

出典：都市再生プロジェクト(第3次決定)

○ 市街地再開発事業の効果

- 都市構造の改善効果
 - ・土地の高度利用：容積率が平均約6.4倍(約90%⇒約573%)
 - ・道路等の公共施設の整備：整備率が平均約1.5倍(約25%⇒約37%)
 - ・都市型住宅の供給：1地区当たり約169戸
 - ・防災性の向上：不燃化率約32%⇒100%

※ 平成14年～18年度における完了地区の平均値

6. 都市再生推進事業等の推進

(1) 基本方針

① 都市再生推進事業

現下の社会・経済の緊急課題（国際競争力の強化、複数施策の連携、21世紀の都市を先導する都市整備、大都市圏問題等に起因する課題等）に対応するため、国が積極的に責任と役割を果たしつつ地方公共団体や民間等多様な主体の参画を得て、戦略的に都市整備を進めるための事業を推進する。

② 都市防災推進事業

わが国の都市は、都市基盤施設の整備を伴わないまま人口・産業等の集中による都市化が急速に進展したため、地震災害等の各種災害に対して構造的に脆弱である。このため、市街地の防災性を高め、安全で安心なまちづくりを行うための事業を推進する。

③ 都市・地域交通戦略推進事業

徒歩、自転車、自動車、公共交通の適正分担を図り、都市・地域の魅力ある将来像の実現と安全で円滑な交通の確保を実現するため、公共的空間や公共交通からなる都市の交通システムの整備を政策目的に基づいて総合的に進めるための事業を推進する。

関 連 指 標	予算額(単位:億円)		主 要 施 策
	事業費	国 費	
都市再生誘発量	(1.01) 146	(0.98) 69	○既成市街地の再生・再構築に資する都市再生総合整備事業、都市再生区画整理事業等
民間都市開発の誘発係数	(0.99) 57	(0.99) 57	○優良な民間都市開発に資するまち再生総合支援事業
地震時等において大規模な火災の可能性があり重点的に改善すべき密集市街地(約8,000ha)のうち最低限の安全性が確保される市街地の割合	(1.33) 51	(1.36) 25	○密集市街地対策等に資する都市防災総合推進事業
防災性の向上を目的としたまちづくりのための事業が行われた市街地等の面積			
基幹的な公共交通を利用可能な人口の割合	(0.98) 71	(0.98) 24	○総合的な都市交通の戦略を推進する都市交通システム整備事業

(注) 上段()書きは、対前年度倍率である。

(2) 都市再生推進事業等予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
都市再生推進事業	20,268	12,581	20,204	12,799	1.00	0.98
都市防災推進事業	6,225	2,800	4,946	2,132	1.26	1.31
都市・地域交通戦略推進事業	7,050	2,350	7,200	2,400	0.98	0.98

(注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 4,098百万円、国費 2,000百万円を含む。

2. 本表のほか、道路環境整備（都市再生）がある。

(3) 主要事項

① 都市再生推進事業

- ・ 都市再生総合整備事業（土地集約・整形化有効利用等推進計画作成事業）の拡充
独立行政法人都市再生機構への補助対象期間を現行中期計画期間の平成20年度まで延長する。
- ・ まち再生総合支援事業の拡充（p. 11参照）
- ・ 都市再生区画整理事業の拡充（p. 9、14、19参照）
- ・ エコまちネットワーク整備事業の拡充（p. 22参照）

② 都市防災推進事業

- ・ 都市防災総合推進事業の拡充（p. 19参照）

③ 都市・地域交通戦略推進事業

- ・ 都市交通システム整備事業の拡充（p. 9、22参照）

7. 民間都市開発推進機構

(1) 基本方針

良好な市街地の形成と都市機能の維持・増進を図るため、民間の資金とノウハウを活用しつつ、民間事業者が行う都市開発プロジェクトに対し、低利資金の供給や出資など民間都市開発推進機構の業務による支援を行い、その推進を図る。

(2) 民間都市開発推進機構予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
都市再生推進事業	5,679	5,679	5,737	5,737	0.99	0.99
まち再生総合支援事業	5,679	5,679	5,737	5,737	0.99	0.99
都市開発資金						
民間都市開発推進資金融資	7,800	0	7,900	0	0.99	—
参加業務分	2,000	0	1,600	0	1.25	—
都市再生支援業務分	5,800	0	6,300	0	0.92	—
合 計	13,479	5,679	13,637	5,737	0.99	0.99

(注) 本表のほか、民間都市開発推進機構補給金196百万円(前年度220百万円)がある。

(3) 主要事項

○ まち再生出資業務の拡充

地方都市における優良な民間都市開発事業を推進し、地域の活性化を図るため、地域の実情に応じた比較的小規模な事業についても資金調達の円滑化を図られるよう、民間都市開発推進機構のまち再生出資業務に係る事業区域面積要件の緩和を行う。(p. 11参照)

8. 独立行政法人都市再生機構

(1) 基本方針

平成16年7月に、都市再生に民間を誘導する事業を実施する独立行政法人都市再生機構が設立された。平成20年度については、中期計画（H20年度は計画最終年度）等に基づき、民間投資を誘発し都市再生に資する事業に重点化して、現行中期計画目標達成に向け着実な事業推進を図る。

(2) 独立行政法人都市再生機構予算額（都市・地域整備局所管分）

（単位：百万円）

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
都市機能更新	40,241	600	59,930	600	0.67	1.00
防災環境軸整備	2,500	0	2,500	2,500	1.00	0.00
土地有効利用	37,956	0	38,235	0	0.99	—
防災公園街区	15,663	0	17,254	4,500	0.91	0.00
まちなか再生・まちなか居住推進	3,000	3,000	3,000	3,000	1.00	1.00
宅地供給推進	18,841	0	19,042	0	0.99	—
合 計	118,201	3,600	139,961	10,600	0.84	0.34

- （注）1. 都市機能更新は、住宅局所管分を含む。
 2. 防災環境軸整備、土地有効利用、防災公園街区及びまちなか再生・まちなか居住推進は住宅局との共管である。
 3. 宅地供給推進は、地方都市分を計上している。
 4. 本表のほか、補給金17百万円（前年度15百万円）がある。

(3) 主要事項

○ 都市再生総合整備事業（土地集約・整形化有効利用等推進計画作成事業）の拡充

独立行政法人都市再生機構への補助対象期間を現行中期計画期間の平成20年度まで延長する。

9. 独立行政法人奄美群島振興開発基金

(1) 基本方針

独立行政法人奄美群島振興開発基金は、国、地方公共団体と並ぶ奄美群島振興開発事業を推進する主体の一部として保証及び融資業務を一元的に行い、一般の金融機関が行う金融を補完又は奨励し、諸産業の育成・振興を図る役割を果たしている。

奄美群島の振興開発に資する事業者に対して円滑な資金供給を行うことにより、地域産業の育成支援を通じた奄美群島の自立的発展を目指すこととしている。

(2) 独立行政法人奄美群島振興開発基金予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業規模	財政投融资	事業規模	財政投融资	事業規模	財政投融资
貸 付	2,400	0	2,400	0	1.00	-
債務保証基金繰入	300	300	300	300	1.00	1.00
(外 保証計画)	(3,000)		(3,000)		(1.00)	
合 計	2,700	300	2,700	300	1.00	1.00

10. 都市整備に係る融資（都市開発資金貸付制度）

（１）基本方針

都市の計画的な整備を推進するため、地方公共団体及び土地開発公社等に対し、公共施設や都市開発のための用地の先行取得資金について貸付けを行うとともに、市街地再開発事業及び土地区画整理事業の促進のため、市街地再開発組合等及び土地区画整理組合等に事業の施行等に必要な資金について貸付けを行う。また、独立行政法人都市再生機構による面的整備事業に要する費用や民間都市開発推進機構の業務に要する費用について無利子で貸付けを行う。

（２）都市開発資金予算額

（単位：百万円）

区 分	平成20年度(A)		前 年 度(B)		倍 率(A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
用地先行取得資金融資	3,024	0	3,045	0	0.99	—
市街地再開発事業等 資 金 融 資	(5,122) 2,561	0	(5,520) 2,760	0	(0.93) 0.93	—
土地区画整理事業資金融資	(9,566) 4,783	0	(10,682) 5,341	0	(0.90) 0.90	—
都 市 再 生 機 構 事 業 資 金 融 資	545	0	545	0	1.00	—
特定公共用地等先行取得 資 金 融 資	0	0	150	0	—	—
民間都市開発推進資金融資	7,800	0	7,900	0	0.99	—
合 計	(26,057) 18,713	0	(27,842) 19,741	0	(0.94) 0.95	—

（注）上段（ ）書きは、地方公共団体負担分を含んだ計数である。

Ⅲ. 事業別予算額

1. 平成20年度市街地整備事業費予算額

区 分	平成20年度 (A)		前年度 (B)		倍率 (A/B)	
	事業費	国費	事業費	国費	事業費	国費
	(単位：百万円)					
市街地再開発事業等	244,875	40,423	246,831	41,780	0.99	0.97
都市・地域整備局	103,918	19,767	109,661	20,781	0.95	0.95
住宅局	140,957	20,656	137,170	20,999	1.03	0.98
・市街地再開発事業	74,669	25,937	79,460	28,195	0.94	0.92
都市・地域整備局	36,119	12,087	40,387	13,504	0.89	0.90
住宅局	38,550	13,850	39,073	14,691	0.99	0.94
・先導型再開発緊急促進事業	142,200	4,486	142,140	4,585	1.00	0.98
都市・地域整備局	51,000	1,680	54,140	1,877	0.94	0.90
住宅局	91,200	2,806	88,000	2,708	1.04	1.04
・暮らし・にぎわい再生事業	28,006	10,000	25,231	9,000	1.11	1.11
都市・地域整備局	16,799	6,000	15,134	5,400	1.11	1.11
住宅局	11,207	4,000	10,097	3,600	1.11	1.11
都市再生推進事業	21,277	12,931	21,213	13,149	1.00	0.98
都市・地域整備局	20,268	12,581	20,204	12,799	1.00	0.98
住宅局	1,009	350	1,009	350	1.00	1.00
・都市再生総合整備事業	6,394	3,321	6,675	3,551	0.96	0.94
都市・地域整備局	5,385	2,971	5,666	3,201	0.95	0.93
住宅局	1,009	350	1,009	350	1.00	1.00
・都市再生区画整理事業	8,111	3,631	8,291	3,691	0.98	0.98
・まち再生総合支援事業	5,679	5,679	5,737	5,737	0.99	0.99
・エコまちネットワーク整備事業	1,093	300	510	170	2.14	1.76
都市防災推進事業	6,225	2,800	4,946	2,132	1.26	1.31
都市防災総合推進事業	5,125	2,500	3,846	1,832	1.33	1.36
宅地耐震化推進事業	1,100	300	1,100	300	1.00	1.00
都市・地域交通戦略推進事業	7,050	2,350	7,200	2,400	0.98	0.98
都市交通システム整備事業	7,050	2,350	7,200	2,400	0.98	0.98
まちづくり交付金	640,000	251,000	612,000	243,000	1.05	1.03
地域自立・活性化交付金	55,556	25,000	44,445	20,000	1.25	1.25
都市開発事業調査	413	413	426	426	0.97	0.97
都市開発資金	16,246	0	16,915	0	0.96	—
都市・地域整備局	14,826	0	14,061	0	1.05	—
住宅局	1,320	0	2,754	0	0.48	—
土地・水資源局	100	0	100	0	1.00	—
独立行政法人都市再生機構	118,201	3,600	139,961	10,600	0.84	0.34
民間都市開発推進機構	21,160	196	21,244	220	1.00	0.89
合 計	1,130,762	338,713	1,114,956	333,707	1.01	1.02
都市・地域整備局	931,820	292,707	929,478	292,358	1.00	1.00
住宅局	143,286	21,006	140,933	21,349	1.02	0.98
土地・水資源局	100	0	100	0	1.00	—
国土計画局	55,556	25,000	44,445	20,000	1.25	1.25
(参 考)						
道路環境整備(都市再生)	4,900	2,450	6,000	3,000	0.82	0.82
都市・地域整備局	4,200	2,100	4,400	2,200	0.95	0.95
住宅局	700	350	1,600	800	0.44	0.44

- (注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 45,897百万円、国費 18,000百万円を含む。
 2. 都市開発資金の上段〈 〉内書きは、都市公園事業と重複計上のため、集計は差し引いて計上している。
 3. 独立行政法人都市再生機構には、都市機能更新事業、土地有効利用事業、防災公園街区整備事業、防災環境軸整備事業、宅地供給推進事業、まちなか再生・まちなか居住推進事業の合計額を計上しており、住宅局との共管分を含む。

2. 平成20年度下水道事業費予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度 (A)		前年度 (B)		倍率 (A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
下水道事業費補助	(1,282,318) 921,727	476,762	(1,349,519) 966,513	510,792	(0.95) 0.95	0.93
未普及解消下水道	(664,188) 357,484	183,911	(716,063) 386,384	204,556	(0.93) 0.93	0.90
未普及解消下水道	(664,188) 357,484	179,439	(716,063) 386,384	193,940	(0.93) 0.93	0.93
特別の地方債の償還額	—	4,472	—	10,616	—	0.42
水質保全下水道	(510,735) 472,744	243,282	(529,589) 491,529	257,414	(0.96) 0.96	0.95
資源循環形成下水道	(107,395) 91,499	49,569	(103,867) 88,600	48,822	(1.03) 1.03	1.02
補助率差額	—	415	—	756	—	0.55
下水道防災事業費補助	(592,935) 280,160	139,923	(588,352) 278,509	139,153	(1.01) 1.01	1.01
浸水対策下水道	(481,094) 229,387	114,475	(477,044) 227,914	113,755	(1.01) 1.01	1.01
地震対策下水道	(111,841) 50,773	25,448	(111,308) 50,595	25,398	(1.00) 1.00	1.00
補助率差額	—	7	—	76	—	0.09
下水道事業調査費	(755) 755	755	(779) 779	779	(0.97) 0.97	0.97
特別の地方債に関する利子の補助	—	7	—	106	—	0.07
小 計	(1,876,008) 1,202,642	617,869	(1,938,650) 1,245,801	651,662	(0.97) 0.97	0.95
都市水環境整備事業費補助	(172,610) 88,203	43,568	(171,397) 88,251	43,776	(1.01) 1.00	1.00
都市水環境整備下水道事業	(149,944) 65,537	32,673	(147,704) 64,558	32,126	(1.02) 1.02	1.02
下水道関連公共施設整備促進事業	(22,666) 22,666	10,895	(23,693) 23,693	11,650	(0.96) 0.96	0.94
補助率差額	—	605	—	850	—	0.71
小 計	(172,610) 88,203	44,173	(171,397) 88,251	44,626	(1.01) 1.00	0.99
合 計	(2,048,618) 1,290,845	662,042	(2,110,047) 1,334,052	696,288	(0.97) 0.97	0.95

- (注) 1.. 事業費欄上段 () 書は、地方単独費を含む総事業費である。
2.. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 53,440百万円、国費 27,981百万円を含む。
3.. 本表のほかに内閣府一括計上の地域再生基盤強化交付金(汚水処理施設整備交付金)20年度 87,478百万円(前年度85,800百万円：1.02倍)がある。

3. 平成20年度都市公園等事業費予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度 (A)		前 年 度 (B)		倍率 (A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
国 営 公 園	34,662	34,662	36,099	36,099	0.96	0.96
維 持 管 理	11,532	11,532	11,362	11,362	1.01	1.01
整 備	23,130	23,130	24,737	24,737	0.94	0.94
都市公園事業調査費	440	440	454	454	0.97	0.97
都市公園事業費補助	92,241	37,721	102,568	41,689	0.90	0.90
補助率差額	—	1	—	21	—	0.05
古都及び緑地保全	9,827	4,711	10,401	4,986	0.94	0.94
都市公園防災事業費補助	67,035	27,250	66,109	27,085	1.01	1.01
補助率差額	—	5	—	15	—	0.33
小 計	204,205	104,790	215,631	110,349	0.95	0.95
緑地環境整備総合 支援事業費補助	13,128	5,314	13,263	5,369	0.99	0.99
合 計	217,333	110,104	228,894	115,718	0.95	0.95

- (注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 12,494百万円、国費 5,478百万円を含む。
2. 都市公園防災事業費補助の事業費には、防災緑地に係る都市開発資金による用地取得費 241百万円（前年度 225百万円）を含む。

4. 平成20年度街路事業費予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度 (A)		前 年 度 (B)		倍率 (A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
街 路 事 業	567,857	310,605	612,158	336,839	0.93	0.92
交 通 円 滑 化	140,329	79,854	160,137	91,745	0.88	0.87
地 域 連 携 推 進	121,328	67,307	142,669	79,650	0.85	0.85
交 通 連 携 推 進	299,362	159,909	302,292	161,796	0.99	0.99
安 全 市 街 地 整 備	2,890	1,561	2,944	1,590	0.98	0.98
電 線 共 同 溝 整 備	3,948	1,974	4,116	2,058	0.96	0.96
土 地 区 画 整 理 事 業	163,123	90,969	180,244	100,320	0.91	0.91
地 域 連 携 推 進	17,640	10,076	17,796	10,194	0.99	0.99
安 全 市 街 地 整 備	145,483	80,893	162,448	90,126	0.90	0.90
市 街 地 再 開 発 事 業 等	32,250	17,938	34,832	19,049	0.93	0.94
街 路 交 通 調 査	2,498	1,136	2,546	1,140	0.98	1.00
道 路 調 査 費	455	455	437	437	1.04	1.04
道 路 調 査 費 補 助	2,043	681	2,109	703	0.97	0.97
小 計	765,728	420,648	829,780	457,348	0.92	0.92
都 市 再 生 事 業 資 金 貸 付 金 等	400	200	820	410	0.49	0.49
う ち 連 続 立 体 交 差 事 業 資 金 貸 付 金	400	200	400	200	1.00	1.00
合 計	766,128	420,848	830,600	457,758	0.92	0.92

(注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 876百万円、国費 453百万円を含む。

2. 各区分の計数には、地方道路整備臨時交付金分(見込値)を含む。

3. 街路事業の電線共同溝には、区分(電線共同溝整備)のほかに、新設・改築に伴って道路改築等で行う整備分がある。

4. 本表のほか、結節点環境改善(事業費 4,859百万円(前年度 4,796百万円)、国費 2,398百万円(前年度 2,398百万円))がある。

5. 平成20年度特定地域振興対策関係予算額

区 分	平成20年度 (A)		前 年 度 (B)		倍 率 (A/B)	
	事業費	国 費	事業費	国 費	事業費	国 費
	(単位：百万円)					
< 離 島 振 興 >	124,867	78,175	139,858	87,808	0.89	0.89
治 水 治 山	16,468	8,623	17,116	8,793	0.96	0.98
・ 治 水 水	7,576	3,886	7,645	3,897	0.99	1.00
・ 治 山 山	2,981	1,635	3,102	1,673	0.96	0.98
・ 海 岸 岸	5,911	3,102	6,369	3,223	0.93	0.96
道 路	30,048	17,838	33,519	19,643	0.90	0.91
港 湾 空 港 鉄 道 等	18,404	13,072	21,178	14,941	0.87	0.87
・ 港 湾	17,067	12,385	20,211	14,351	0.84	0.86
・ 空 港	1,337	687	967	590	1.38	1.16
都 市 環 境 整 備	141	47	141	47	1.00	1.00
下 水 道 水 道 廃 棄 物 処 理 等	9,833	4,865	11,093	5,582	0.89	0.87
・ 下 水 道	4,682	2,368	6,359	3,280	0.74	0.72
・ 簡 易 水 道	4,040	2,020	3,690	1,845	1.09	1.09
・ 廃 棄 物 処 理	1,061	452	974	422	1.09	1.07
・ 都 市 公 園	50	25	70	35	0.71	0.71
農 業 農 村 整 備	10,019	6,650	12,312	8,271	0.81	0.80
森 林 水 産 基 盤 整 備	39,531	26,839	44,074	30,288	0.90	0.89
・ 森 林 整 備	3,102	1,291	3,367	1,421	0.92	0.91
・ 水 産 基 盤 整 備	36,428	25,548	40,707	28,867	0.89	0.89
小 計 (公共事業)	124,444	77,934	139,433	87,565	0.89	0.89
離島体験滞在交流促進事業	366	183	364	182	1.01	1.01
離島振興対策調査費等	57	57	60	60	0.95	0.95
小 計	424	241	425	243	1.00	0.99
< 奄 美 振 興 >	(41,805)	(30,436)	(43,608)	(31,427)	(0.96)	(0.97)
治 水 治 山	41,478	30,109	43,608	31,427	0.95	0.96
・ 治 水 水	2,224	1,438	2,123	1,351	1.05	1.06
・ 治 山 山	1,250	808	1,094	706	1.14	1.14
・ 海 岸 岸	335	204	362	225	0.93	0.91
道 路	639	426	667	420	0.96	1.01
港 湾 空 港 鉄 道 等	8,655	5,968	8,195	5,696	1.06	1.05
・ 港 湾	7,620	6,523	8,204	7,016	0.93	0.93
・ 空 港	6,910	5,961	7,540	6,533	0.92	0.91
都 市 環 境 整 備	710	562	664	483	1.07	1.16
下 水 道 水 道 廃 棄 物 処 理 等	182	91	1,144	572	0.16	0.16
・ 下 水 道	3,108	1,587	3,200	1,578	0.97	1.01
・ 簡 易 水 道	1,494	780	1,284	670	1.16	1.16
・ 廃 棄 物 処 理	1,428	714	1,236	618	1.16	1.16
農 業 農 村 整 備	186	93	680	290	0.27	0.32
森 林 水 産 基 盤 整 備	(15,994)	(12,302)	(16,667)	(12,576)	(0.96)	(0.98)
・ 森 林 整 備	15,667	11,975	16,667	12,576	0.94	0.95
・ 水 産 基 盤 整 備	3,102	2,069	3,149	2,177	0.98	0.95
・ 森 林 整 備	1,118	492	1,179	547	0.95	0.90
・ 水 産 基 盤 整 備	1,984	1,577	1,970	1,630	1.01	0.97
小 計 (公共事業)	(40,885)	(29,978)	(42,683)	(30,966)	(0.96)	(0.97)
奄美群島振興開発調査等	40,558	29,651	42,683	30,966	0.95	0.96
奄美群島産業振興等事業費	163	115	169	118	0.96	0.97
奄美農業創出支援事業費	581	256	575	253	1.01	1.01
小 計	176	88	181	91	0.97	0.97
< 小 笠 原 振 興 >	919	458	926	461	0.99	0.99
小笠原諸島振興開発事業費補助	2,692	1,512	2,602	1,567	1.03	0.97
小笠原諸島振興開発費補助金等	2,425	1,325	2,337	1,381	1.04	0.96
小笠原諸島振興開発費補助金等	267	187	265	186	1.01	1.00
< 豪 雪 対 策 >	295	171	300	176	0.98	0.97
< 半 島 振 興 >	64	64	66	66	0.97	0.97

- (注) 1. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、離島分：事業費 5,204百万円、国費 3,172百万円、奄美分：事業費 1,284百万円、国費 841百万円を含む。
 2. 離島振興及び奄美振興については、一般公共事業の国土交通省一括計上及び行政経費である。
 3. 離島振興及び奄美振興の空港の事業費の財源には、社会資本整備事業特別会計空港整備助定の空港使用料を含む。
 4. 本表における計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計した額と一致しない場合がある。
 5. 上段 () 書きは、農林水産省計上予算 (327百万円) を含んだ計数である。

6. 平成20年度都市開発資金予算額

(単位：百万円)

区 分	平成20年度 (A=C+E+G)	前年度 (B=D+F+H)	倍率 (A/B)	財 源 内 訳					
				一般会計より受入		財政融資資金		自己資金	
				平成20年度 (C)	前年度 (D)	平成20年度 (E)	前年度 (F)	平成20年度 (G)	前年度 (H)
用地先行取得資金融資	3,024	3,045	0.99	0	0	0	850	3,024	2,195
都市施設用地	3,024	3,045	0.99	0	0	0	850	3,024	2,195
都市機能更新用地	0	0	-	0	0	0	0	0	0
市街地再開発 事業等資金融資	(5,122) 2,561	(5,520) 2,760	(0.93) 0.93	0	0	0	0	2,561	2,760
都市・地域整備局	(3,802) 1,901	(2,766) 1,383	(1.37) 1.37	0	0	0	0	1,901	1,383
住 宅 局	(1,320) 660	(2,754) 1,377	(0.48) 0.48	0	0	0	0	660	1,377
土地区画整理事業資金融資	(9,566) 4,783	(10,682) 5,341	(0.90) 0.90	0	0	0	0	4,783	5,341
都市再生機構事業資金融資	545	545	1.00	0	0	0	0	545	545
土地・水資源局	100	100	1.00	0	0	0	0	100	100
都市・地域整備局	200	200	1.00	0	0	0	0	200	200
住 宅 局	245	245	1.00	0	0	0	0	245	245
特定公共用地等 先行取得資金融資	0	150	-	0	0	0	150	0	0
民間都市開発推進資金融資	7,800	7,900	0.99	0	0	0	0	7,800	7,900
都市開発資金貸付金 計	(26,057) 18,713	(27,842) 19,741	(0.94) 0.95	0	0	0	1,000	18,713	18,741
土地・水資源局	(100) 100	(100) 100	(1.00) 1.00	0	0	0	0	100	100
都市・地域整備局	(24,392) 17,708	(24,743) 18,019	(0.99) 0.98	0	0	0	1,000	17,708	17,019
住宅対策分	(9,566) 4,783	(10,682) 5,341	(0.90) 0.90	0	0	0	0	4,783	5,341
都市環境整備分	(14,826) 12,925	(14,061) 12,678	(1.05) 1.02	0	0	0	1,000	12,925	11,678
住 宅 局	(1,565) 905	(2,999) 1,622	(0.52) 0.56	0	0	0	0	905	1,622
住宅対策分	(245) 245	(245) 245	(1.00) 1.00	0	0	0	0	245	245
都市環境整備分	(1,320) 660	(2,754) 1,377	(0.48) 0.48	0	0	0	0	660	1,377
借入金償還等	15,999	23,267	0.69	0	0	0	0	15,999	23,267
再 計	34,712	43,008	0.81	0	0	0	1,000	34,712	42,008

(注) 上段 () 書きは、地方公共団体負担分を含んだ計数である。

7. 平成20年度行政経費予算額

区 分	(単位：百万円)					
	平成20年度(A)		前年度(B)		倍率(A/B)	
	事業費	国費	事業費	国費	事業費	国費
良好な水環境の形成等の推進に必要な経費	763	613	470	470	1.62	1.30
下水道水環境保全効果向上推進経費	300	150	0	0	皆増	皆増
日本下水道事業団補助金	411	411	418	418	0.98	0.98
等						
緑地環境の保全等の対策に必要な経費	131	131	137	137	0.95	0.95
明日香村歴史的風土創造的活用事業交付金	110	110	110	110	1.00	1.00
等						
地球温暖化防止等の環境の保全に必要な経費	680	340	42	42	16.36	8.18
先導的都市環境形成促進事業経費	640	300	0	0	皆増	皆増
等						
住宅・市街地の防災性の向上に必要な経費	61	61	33	33	1.83	1.83
景観に優れた国土・観光地づくりに必要な経費	2,203	953	644	244	3.42	3.91
景観・歴史的環境形成総合支援事業経費	2,180	930	600	200	3.63	4.65
等						
都市・地域づくりの推進に必要な経費	2,761	2,004	2,803	1,947	0.98	1.03
豪雪地帯対策特別事業等に必要な経費	295	171	300	176	0.98	0.97
集落活性化推進事業に必要な経費	989	400	0	0	皆増	皆増
防災のための集団移転促進事業に必要な経費	59	44	59	44	1.00	1.00
等						
総合的な国土形成の推進に必要な経費	248	248	236	236	1.05	1.05
テレワーク推進調査経費	70	70	35	35	1.98	1.98
等						
離島振興に必要な経費	424	241	425	243	1.00	0.99
奄美群島の振興開発に必要な経費	741	368	743	369	1.00	1.00
奄美群島園芸振興に必要な経費	176	88	181	91	0.97	0.97
小笠原諸島の振興開発に必要な経費	2,652	1,473	2,562	1,527	1.04	0.96
その他(国土交通本省一般行政に必要な経費等)	110	110	115	115	0.95	0.95
合 計	10,948	6,627	8,391	5,454	1.30	1.22

【参 考】 地方整備局(建政部)関係

新たな都市計画制度の活用並びに普及・啓発に要する経費等	50	50	51	51	0.98	0.98
-----------------------------	----	----	----	----	------	------

- (注) 1. 前年度の計数は、組み替え後の計数である。
 2. 平成20年度には、重点施策推進要望に係る施策として、事業費 2,290百万円、国費 1,100百万円を含む。
 3. 本表における計数は、特定地域振興対策分を含む。
 4. 本表における計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計と一致しない場合がある。